

Title	移住者・受入側の両者が変化する異文化適応プロセス の考察—違和感の視点から—
Author(s)	陳, 姝帆
Citation	
Issue Date	2009-03
Type	Thesis or Dissertation
Text version	author
URL	http://hdl.handle.net/10119/8079
Rights	
Description	Supervisor:橋本 敬, 知識科学研究科, 修士

修 士 論 文

移住者・受入側の両者が変化する

異文化適応プロセスの考察

—違和感の視点から—

指導教員 橋本 敬 准教授

北陸先端科学技術大学院大学
知識科学研究科

0750034 陳 殊帆

審査委員： 橋本 敬 准教授（主査）
中森 義輝 教授
池田 満 教授
伊藤 泰信 准教授

2009 年 2 月

目次

第1章 はじめに.....	6
1.1 研究背景.....	6
1.2 これまでの異文化適応の研究.....	8
1.3 違和感の視点.....	10
1.4 研究の目的とその方策	12
1.5 本論文の構成.....	13
第2章 研究方法.....	14
2.1 調査1	14
2.1.1 グループワークへの注目	14
2.1.2 アンケート調査.....	15
2.1.3 インタビュー	17
2.2 調査2	18
2.2.1 アンケート調査.....	18
2.2.2 インタビュー	21
第3章 結果.....	22
3.1 調査1	22
3.1.1 アンケート調査の結果.....	22
3.1.2 インタビュー調査の結果	27
3.1.3 調査1結果のまとめ.....	28
3.2 調査2	29
3.2.1 アンケート調査の結果.....	29
3.2.2 インタビュー	35
3.2.3 調査2結果のまとめ	37
第4章 議論.....	38
4.1 異文化適応プロセスモデル	38
4.2 提案.....	39
第5章 結論.....	42
5.1 本研究の問題点と課題	42
5.2 結論.....	42
付録	45

参考文献	80
謝辭	84

図目次

図 1. 事業所規模別一事業所当たり外国人労働者数.....	7
図 2. 北陸先端科学技術大学院大学の留学生の比率.....	7
図 3. Lysgaard の U カーブモデル	8
図 4. Adler の 5 段階説	9
図 5. Gallahon の W カーブモデル	9
図 6. 異文化適応の状態.....	11
図 7. 調査 2 の方法.....	19
図 8. 違和感を持つ割合（日本人学生）	24
図 9. 違和感を持つ割合（留学生）	25
図 10. 違和感の意識化の割合.....	25
図 11. 授業ごとでの違和感を持つ割合	26
図 12. 異文化適応プロセスモデル	28
図 14. ワークショップの議論方法のイメージ図	40
図 15. 異文化適応プロセスモデル	43

表目次

表 1	授業別グループの構成.....	15
表 2	調査 1 の回収状況.....	16
表 3	留学生の基本属性 ($N=25$)	22
表 4	日本人学生の基本属性 ($N=30$)	23
表 5	来日の目的 ($N=25$)	23
表 6	違和感と正の相関がある質問項目 (留学生)	26
表 7	違和感得と正の相関がある質問項目 (日本人学生)	27
表 8	違和感と負の相関がある質問項目 (日本人学生)	27
表 9	操作的な調査を実施される前の適応状態尺度 1 の結果.....	30
表 10	操作的な調査を実施された後の適応状態尺度 1 の結果.....	30
表 11	操作的な調査を実施される前の適応状態尺度 2 の結果.....	30
表 12	操作的な調査を実施された後の適応状態尺度 2 の結果.....	31
表 13	適応状態尺度 1 についてグループ別での比較	31
表 14	適応尺度 2 についてグループ別で比較	32
表 15	各尺度に対する値の平均.....	33
表 16	在席する研究室の学生の構成.....	36

第1章 はじめに

1.1 研究背景

国際化が進んでいる現代社会では、外国へ行かなくてもいろいろな国の人と接することがある。また近年では、個人の異文化接触場面が著しく増えている。日本でも、1983年に発表された中曽根元首相の「留学生受け入れ10万人計画」¹をはじめ、2008年1月に大学の国際化を目指すために福田元首相によって打ち出された「留学生30万人計画」²などがあり、異文化接触の機会が増えていると考えられる。また、福祉医療の分野でも2008年8月にインドネシア人看護師、介護福祉士候補者208人の受け入れが行われている³。このように積極的に外国人を受け入れる原因の一つとして、少子高齢化の進行による就労人口の不足が考えられる。

移住者・受入側の異文化接触の機会は着実に増えている。厚生労働省は毎年日本全国の事業所を対象にした外国人の雇用状況を調査している。事業所別での一事業所当たりの外国人労働者数は毎年増えている（図1）。北陸先端科学技術大学院大学においても、この10年間で留学生の比率は4倍になった（図2）。移住者の増加によって今後、日本における異文化コミュニケーション⁴の問題は一層大きくなると考えられる。

¹ 文部科学省（2001）「留学生受け入れ10万人計画」概要より

² 文部科学省（2008）「留学生30万人計画」骨子より

³ 外務省（2007）「日・インドネシア経済連携協定」より

⁴ 異文化コミュニケーションとは、異なる文化背景を持つ個人または集団の間で交換される言語及び非言語メッセージに基づく相互作用（石井，2005，p.167）。

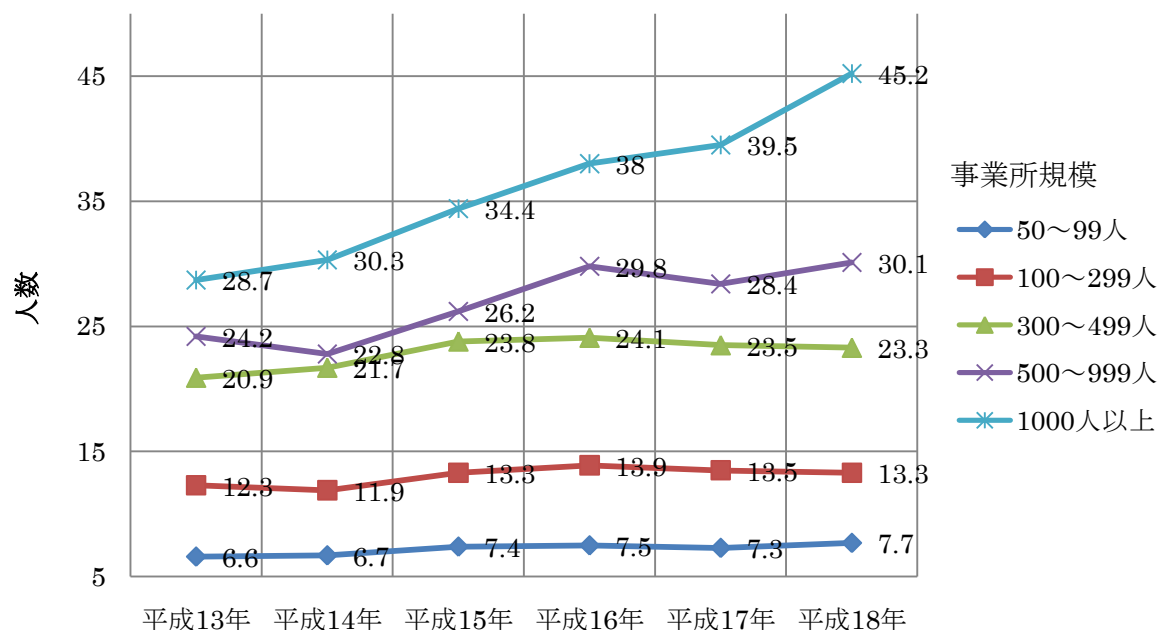


図 1. 事業所規模別一事業所当たり外国人労働者数⁵

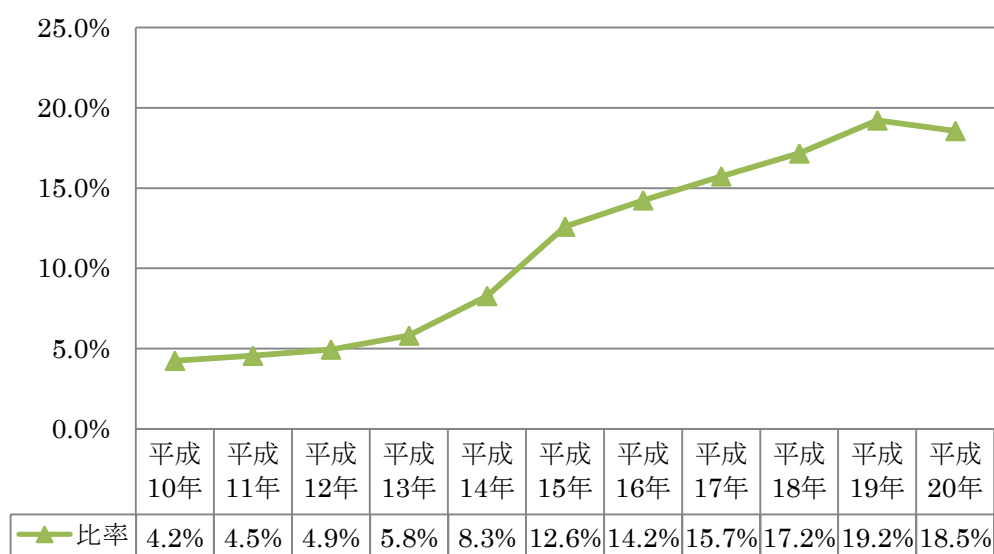


図 2. 北陸先端科学技術大学院大学の留学生の比率⁶

社会全体における移住者の比率は受入側に比べて圧倒的に低く、移住者と付き合いわずに済ますという方法を取ることも不可能ではない。しかし、会社や学校などの局所的な組織においては、移住者の比率が社会全体よりも高まる場合がある。特に、組織

⁵ 厚生労働省平成13年～平成18年の外国人雇用状況報告の結果に基づいて作成したもの。

⁶ 出典：北陸先端科学技術大学院大学の学生課所有データ。

の中に比較的少人数のグループ（教室、部署、タスクフォース等）が作られる場合、移住者と付き合わずに済ますことはできない。このような場合、移住者だけが適応するのではなく、受入側も移住者の適応に向けて変わっていく必要があるだろう。

1.2 これまでの異文化適応の研究

異文化コミュニケーションの分野で一般に扱われる問題として異文化適応の問題がある。その代表的な研究として Lysgaard (1955) の U カーブモデル（図 3）や Adler (1975) の 5 段階説（図 4）がある。これらの研究では、異なる文化背景を持つ人たちと接触した移住者が、最初は興味や興奮を覚えるが、やがてカルチャーショックに陥り、その後カルチャーショックを乗り越えて適応するプロセスとして異文化適応をモデル化している。Oberg (1954) はカルチャーショックを「Culture shock is precipitated by the result from losing all our familiar signs and symbols of social intercourse .」と解説している。つまりカルチャーショックは文化⁷の違いによる心理的な衝撃あるいは強いストレスを体験することとされている。

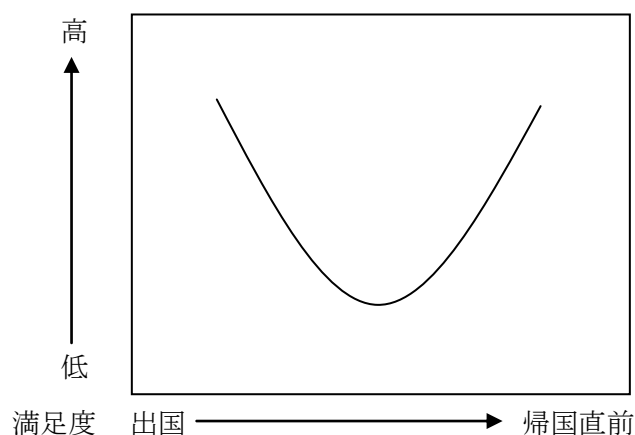


図 3. Lysgaard の U カーブモデル（八代ら，1998，p.245）

⁷ 文化には衣食住，言語及び非言語行動様式と価値基準・思考様式が含まれている（石井，“異文化コミュニケーション研究の歩み”『異文化コミュニケーション』有斐閣，1997，p.33）。

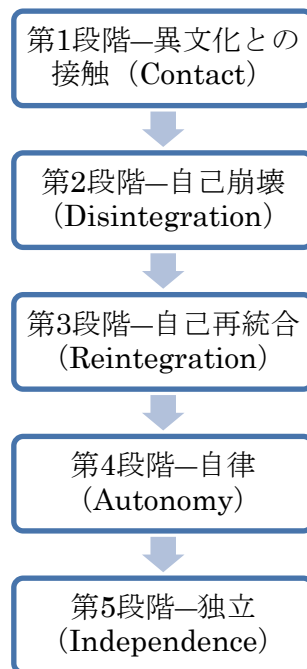


図 4. Adler の 5 段階説（八代ら，1998，p.254-255 の表を参考に図にまとめた.）

また，Gallahon（1963）の W カーブモデル（図 5）は帰国後の再適応を考慮しているが，前半の異文化適応プロセスは基本的に U カーブモデルと同じプロセスとしてモデル化されている．

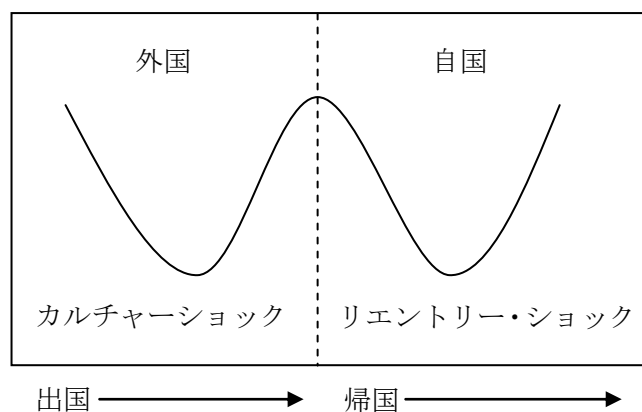


図 5. Gallahon の W カーブモデル（八代ら，1998，p.245）

これらの既存の異文化適応の研究では，ほとんどの場合移住者にだけ注目している．前節で提示した状況をうまく適用できない．異文化適応プロセスは相互の適応過程としてモデル化することによってより正しく理解することができるのではないかと考えられる．

江淵（1991）は留学生の適応について「相互調節」という適応概念を提唱した．「相互調節」とは「留学生の同化を強制するのではなく，受け入れ側はできるだけ彼らの

生き方を許容する方向で対応し、場合によっては彼らに合わせて受け入れ側が自己調整（自己変革）を図ることも必要である」ということである。神谷ら（2002）は留学生と接触がある日本人大学生を対象にして、異文化接触による意識・行動の変容という視点で異文化適応を調査し、「留学生との接触経験がある学生には、明確な言語コミュニケーション能力、対人関係での自己開示、所属の仲間への気配りが顕著に見られた」という結果を得ている。江淵の指摘と神谷らの調査結果から、異文化接触によって、変化するのは移住者だけではなく、受入側も変わっていく必要があるのだと考えられる。

一方、前節で指摘したように、両者が適応に向かって変化していくべき状況も生じている。そこで、本研究では、移住者・受入側の両者が変化していく異文化適応のプロセスをモデル化することを試みる。

1.3 違和感の視点

前節で紹介した既存研究の異文化適応モデルはカルチャーショックを乗り越えて適応に至るプロセスに着目している。しかし、星野（1980）は、UカーブやWカーブに対してはつぎのような批判がある「これらのモデルは単一のパターンが提示されているだけで、そのバリエーションが具体的に示されていないこと、そしてこうした段階の位相を促す要因についてはほとんど触れていない」。移住者の適応プロセスにだけ注目している異文化適応プロセスは前説のような状況には適用できないと考えられる。また、池田と Kramer（2000）も「移住者の中には、いつまでも違和感を持ち続ける人や、「カルチャーショック」を完全には乗り越えられない人もいよう。こうしたケースは、単なる両モデルのバリエーションとして片づけられない」と批判している。本論ではこれらの批判に加えて、もうひとつの問題点を指摘する。それは異文化適応にはカルチャーショック状態ほど深刻ではないが、適応状態には至らない中間的な非適応状態で留まり続ける場合がある（図 6）。

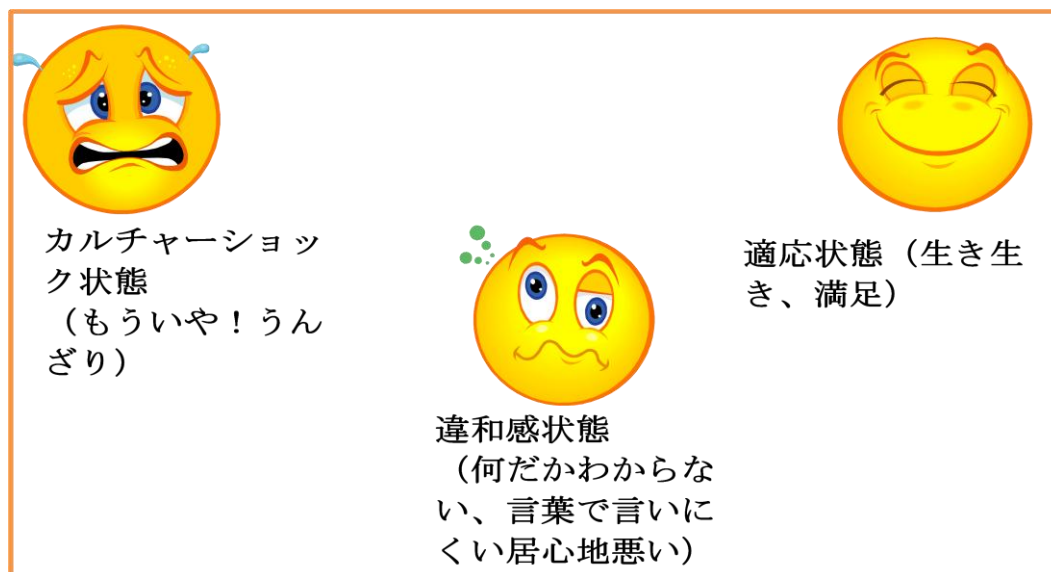


図 6. 異文化適応の状態

瀬名ら（2006）は「違和感」を「ギャップがあるという居心地の悪い感覚」 p.23 とし、さらに、これと似ているが少し異なる概念として「異和感」を取り上げている。後者は「ギャップがどれくらいあるのかを捉える感覚」 p.23 というものである。「違和を異和へと展開させることで、私たちは文化摩擦を技術で解決できる問題へと落とし込んでいる」 p.27 と述べている。ここで、「違和（wrongness）とは主観的、何らかの対象に感じる齟齬、えも言われぬ心地悪さ、無意識的な嫌悪の感覚など」 p.22 であり、「異和（gap）とは違和を客体化しようとしたもの」 p.23 である。瀬名らは「違和感を覚える状況や対象を相対化し、俯瞰的な視点を取ることで「自」と「他」の間の感覚を掴むことができる」と述べている。この指摘から考えると、移住者と受入側のそれぞれが感じている違和感を見出し、それを比較することでその差異（＝異和）を明らかにし、その異和を乗り越えるように両者が努力することが異文化適応の可能性を開くのではないかと考えられる。

以上の観点から異文化適応を捉えるとき、最初に検証すべきは、移住者や受入側の人々がコミュニケーションの場面でそもそも違和を感じているのだろうかという問いである。もし違和を感じているなら、次のステップとして違和が異和へ変化するプロセスが実際に観察されるのだろうかという問いを立てることができる。そして、そのプロセスが適応状態とどのような関係にあるのかを調べることによって、違和から異和への転換が果たす適応の効果を検討することができるものとする。

本研究では、違和感という視点から異文化適応プロセスモデルを構築する。また、瀬名らの定義を参照し、違和感と異和感を次のように定義する。

- 違和感（feeling of wrongness）：主観的、何だかわからない、言葉で表しにくい居心地悪い感覚。

- 異和感 (feeling of gap) : 客観的に自分と他者との違いを見分ける感覚.

1.4 研究の目的とその方策

以上のことから、本研究では違和感の視点から移住者と受入側の両方が変化していく異文化適応のプロセスをモデル化することを試みる。このため、本研究ではまず、最初に違和感の視点から見た適応のプロセスモデル⁸を概略的に構築する。そして、異文化への適応が実際にどのようなプロセスで起こるのかをアンケートとインタビューによって調査することで、実際の異文化適応プロセスが、ここで構築するプロセスモデルとどのように一致するのかを比較・検討することを通じて、異文化への適応をよりうまく手助けする方策を提言することを目的とする。

以下に、異文化適応に関するプロセスモデルの概略を示す。瀬名ら (2006) によって、まず「無意識状態での居心地悪さ」があり、次に「違和感の意識化」が起こり、その後「ギャップへの転換と自己変容」に至るというプロセスがある。ここで、「違和感の意識化」とは具体的にどのようなことなのだろうか。そしてまたそれをどのような指標で測るのだろうか。これを考えるための鍵として1つ挙げられるのは、どのような場面で違和感を持ったのかを言葉で表せるかどうかということである。また、「ギャップへの転換」はその原因はどこにあるのかを考えることとなぜ相手はそのような言動をするのかを考えることに相当するのではないだろうか。さらに、「自己変容」は、自分が異和を納得した状態を表現するのではないかと考えられる。

こういったことから、本論では、違和感の視点を取り込んだ異文化適応のプロセスを次のように考える。

移住者と受入側の異文化接触によって、相手の言動対して何らかの違和感（無意識状態の居心地悪さ）を持つことになる。その居心地悪い感覚を意識することによって、移住者（あるいは受入側）自身がどんな場面で違和感を持ったのかを言葉で表すことができる。つぎに、移住者（受入側）がその原因はどこにあるのかを考える。さらに、なぜ相手はそのような言動をするのかを考え、自分と他者との違いを比較することによって、異和へ転換することになる。最後に異和を納得し、自分と他者を客観的に捉えることによって適応に至る。

本論文では、この概略的なモデルをより詳細にするために調査1を行う。さらに、詳細化されたモデルを調査2により検証することを試みる。

⁸ 本論では、連続的な因果関係を持つプロセスを一般化したモデルをプロセスモデルと呼ぶ。モデルとは、複数の変数間の因果関係を示すもの（山口, 2005, p.88）。

1.5 本論文の構成

本論文の構成について説明する．本章では異文化適応プロセスについての関連研究の説明を行い，従来の異文化適応のプロセスに関して概説した．つぎに本研究で違和感の視点から異文化適応プロセスモデルを構築するための関連理論について述べた．その後，モデルについての解説を行った．

以下，第 2 章においてアンケート調査と半構造化インタビューを通じて調査する．その方法を提示する．

第 3 章では，調査 1 の結果と構築した異文化適応プロセスモデルを示す．また，モデルの検証を行った調査 2 の結果を示す．

続く第 4 章では調査の結果を踏まえた議論を行う．さらに自分と他者との違いを客観的に捉えることを可能にする方法を提示する．

最後の第 5 章に本論のいくつかの問題点と課題を述べたうえ，本論文の結論を置く．

第2章 研究方法

前章では従来の異文化適応モデルに局限性があり，移住者と受入側相互の適応過程を理解する必要性について論じた．

異文化の適応が実際にどのようなプロセスで起こるのかをアンケート調査とインタビューによって調査する．本章ではその調査対象・方法について論じる．

中村（2005）は「現実のコミュニケーション場面を直接取り上げるフィールド研究や，包括的な調査研究などと補い合うことで，実験的研究がより意味を持つことになる」と指摘する．本論では指摘に従い，各プロセス間の因果関係を探るため，質問紙調査によって，違和感に関する概略調査を行う．さらにインタビューを通じて，違和感についての個別調査を行う．

2.1 調査1

2.1.1 グループワークへの注目

少人数の学習者がひとつの課題を達成するため，協働的なグループ形態の学習活動として，グループワークが注目されている（Cohen, 1994）．田崎（2003）は英語を共通語として行われた日本人学生と留学生とのグループワークについて調査を行った．「意志の疎通に関しては，英語使用の困難，コミュニケーションスタイルの相違に対する戸惑いを述べるコメントが中心となっている」という結果から，グループワークの場面で移住者と受入側が互いに関して戸惑うことを意識している．この戸惑うことが違和を感じてから意識していると考えられる．この例からは，移住者と受入側の両者が参加するグループワークでは，両者とも違和感を持つと考えられる．グループワークの場では移住者と受入側が互いに感じた違和を調査することができると考えられる．

北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科では，授業の一環としてグループワークが実施される．その場合，留学生と日本人学生が共同でグループワークを行う機会も多い．授業によっては，留学生と日本人学生が同じくらいの比率になることや，極端な場合にはその比率が逆転しているケースもある（表1）．そこで，移住者の比率が高い状況でインタラクションするケースとして本研究ではグループワークに注目する．

表 1 授業別グループの構成

	グループ	日本人学生（人）	留学生（人）
イノベーション概論 ⁹	1	5	5
	2	5	4
	3	5	5
	4	5	5
	5	6	4
	6	5	5
システム科学方法論 ¹⁰	1	5	1
	2	1	7
	3	4	4
	4	6	1
	5	4	2
	6	1	7

2.1.2 アンケート調査

(1) 調査対象

新しい環境へ移り住む人は違和感や戸惑いを感じやすいため、新入生を調査対象にする。また、グループワークの場で異文化適応プロセスモデルを構築するため、グループワークを行う講義でアンケート調査を実施しなければならない。また、グループワークの形式の違いによる要因を排除するため、同じ形式でグループワークを行う北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科の講義「イノベーション概論」と「システム科学方法論」を選定した。イノベーション概論とシステム科学方法論でのグループワーク形式は、学生が少人数のグループ討論を通じて、与えられた課題を完成する。

以上の理由で本研究の調査対象の選定は次の条件に従った。

- 条件 1：2008 年度北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科の博士前期課程の新入生（2007 年 10 月入学の学生も含む）。
- 条件 2：「イノベーション概論」と「システム科学方法論」どちらを履修し、グループワークに参加する者。

⁹ 知識科学研究科の講義名である。講義の内容は「パーソナルコンピュータの誕生」などの事例を通じて、イノベーション創出のマネジメントについて学ぶことである（北陸先端科学技術大学院大学平成 19 年度履修案内 p.50）。

¹⁰ 知識科学研究科の講義名である。講義の内容はシステム方法論の概要とシステム技法，創造的問題解決法，統計的手法，意思決定手法について学ぶことである（北陸先端科学技術大学院大学平成 19 年度履修案内 p.52）。

(2) 調査方法

まず，違和感を持っているかどうかを調べるため，アンケート調査により違和感についての概略調査を行う．また，インタビューで違和感についての個別調査を行う．アンケートはグループワークが行われる前後に実施する．二つの講義で行われたグループワークのグループ構成（表 1）が違うので，どちらの調査対象が違和感を多く持っているのかを調べるために，講義別での比較を行うと共に学生別（留学生と日本人学生）でのグループワーク前後を比較する．

(3) 実施日

二つの講義は 4 月 6 日から 6 月 4 日まで，毎週 2 回実施された．各講義で調査実施日はつぎの通りである．

- グループワークが実施される前：5 月 13 日（イノベーション概論）
5 月 15 日（システム科学方法論）
- グループワークが実施された後：5 月 29 日（イノベーション概論）
6 月 3 日（システム科学方法論）

(4) 分析対象者

イノベーション概論とシステム科学方法論を担当する先生方の協力を得て，アンケートを授業後に配布してその場で回収した．回収できた有効回答はグループワーク前で 55 名，グループワーク後で 52 名である．有効回答データを分析の対象とした（二つの授業を履修している学生の総人数： $N=62$ ，ただし，二つの授業を共に履修している学生は一度だけ集計）．表 2 にアンケート調査の回収状況を示した．

表 2 調査 1 の回収状況

	グループワーク 実施前（人）	回収率（%）		グループワーク 実施後（人）	回収率（%）
日本人学生	30	88		27	79
留学生	25	89		25	89
合計	55	89		52	84

(5) 質問紙（付録 1）

質問紙は全部で 4 種類ある．グループワーク実施前の留学生を対象にした質問紙を「調査票（留学生用）前」とし，日本人学生を対象にした質問紙を「調査票（日本人学生用）前」とする．グループワーク実施後の留学生を対象にした質問紙を「調査票（留学生用）後」とし，日本人学生を対象にした質問紙は「調査票（日本人学生用）後」とする．

具体的にはつぎのような内容である。

i) 調査票（留学生用）前は、

- ① フェースシート（国籍・年齢・性別・学籍・学部の専攻・日本語の勉強期間）6項目、
- ② JAISTでの学習、日常生活、心身状態の3領域から14項目、
- ③ 来日の目的10項目、
- ④ 本学校に入学する前にグループワークが行ったかどうかに関する質問3項目。

ii) 調査票（留学生用）後は、

- ① JAISTでの学習、日常生活、心身状態の14項目（調査票（留学生用）前と同じ）
- ② グループワークに関する質問（違和感に関する質問を含む）6項目、
- ③ 自分と日本人学生との共通・相違2尺度30項目。

留学生用の質問尺度の構成に関しては神谷ら（1999）p.134の「異文化接触による相互の意識変容に関する研究(6)」を参考にし、本校の実際の状況に応じて作成した。

iii) 調査票（日本人学生用）前の質問票は、

- ① フェースシート部分（名前・年齢・性別・学籍・学部の専攻）の5項目、
- ② 異なる文化に対する考え方の8項目、
- ③ 留学生との接触2項目、
- ④ 本学校に入学する前にグループワークを行ったことがあるかどうかに関する質問3項目。

iv) 調査票（日本人学生用）後は、調査票（日本人学生用）前の②異なる文化に対する考え方の8項目、グループワークに関する質問と自分と留学生との共通・相違の部分（調査票（留学生用）後と同じ）30項目で構成した。

日本人学生の異文化に対する考え方については、山本ら（2001）の「異文化感受性発達尺度」を参考にし、本校の学生に適した表現に改変して用いた。選択肢には「①当てはまる、②少し当てはまる、③あまり当てはまらない、④当てはまらない」の4段階を設定した。また、留学生用の質問紙は日本語で作成した。

2.1.3 インタビュー

本研究ではアンケート対象のうち違和感を持った学生に対して半構造化インタビ

ュー¹¹を行った。半構造化インタビューには「インタビュアーは得られた回答を踏まえて、より自由に探り入れるように尋ねることができる」（中野 2005, p.177）というメリットがある。インタビュアーは、得られた回答に対して明確にすることや詳しく話すことを要求することができる。アンケート調査で解明できなかった点を、半構造化インタビューを通じて明らかにすることを目的とした。

アンケート調査の結果に基づき、インタビューの質問項目を次のように構築した。

(1) インタビューの対象者

アンケート調査の結果によって、違和感を持つと答えた学生 8 人（日本人学生 4 人と留学生 4 人）に対して、一人約 30 分程度の単独インタビューを行った。

(2) 実施日

7 月 31 日に（4 人）と 8 月 1 日（4 人）の 2 回に分けて実施した。

(3) 質問項目の設定（付録 2）

被験者が感じた違和の原因はどこにあるのか、実際の異文化適応プロセスが考えるプロセスモデルとどのように一致し、どこに差異があるのかを明らかにするため、次のような質問項目を考案した。

- どんな場面で違和感を持ったのか？
- 相手のどんな言動あるいは言葉によって、違和感を持ったのか？
- どんな目的で授業を受けたのか？（あるいは授業に取り組む姿勢）
- 相手はなぜそのような言動をしたのかについて、その理由は何か？
- その違和感を納得したか？

全ての質問項目は付録 2 で示した。

2.2 調査 2

調査 2 では、違和から異和への転換が果たす適応への効果を明らかにすることを目的とする。その方法について説明する。

2.2.1 アンケート調査

(1) 調査対象

調査 2 では、来日間もない、2008 年 10 月入学の中国出身の留学生 6 人を対象にした。2008 年 10 月 28, 29 日に 1 回目のアンケート調査を行い、2008 年 11 月 24, 25

¹¹ 半構造化インタビューとは、インタビューにおいて問われる質問や回答の方法が、あらかじめ決められていることを指す（中野 2001）。

日に2回目を行った。

(2) 調査方法

まず，調査の対象者に適応状態に関する調査票1（付録3）を実施した．その適応状態尺度1の結果によって，対象者を適応状態尺度1に関して良くないグループ（Aグループ）と良いグループ（Bグループ）に分けた．Aグループに操作的な調査（調査票2）を行った．これは，違和感を客観的に理解した異和の状態にさせることを意図したものである．約1ヶ月後，2つのグループにもう一度アンケート調査（調査票3）を行った（図8）．Aグループでの前後の差（①）とBグループでの前後の差（②）を比較し，さらに前A・Bグループの差（③）と後A・Bグループの差（④）を比較することで違和から異和への転換が果たす適応の効果を調査した．

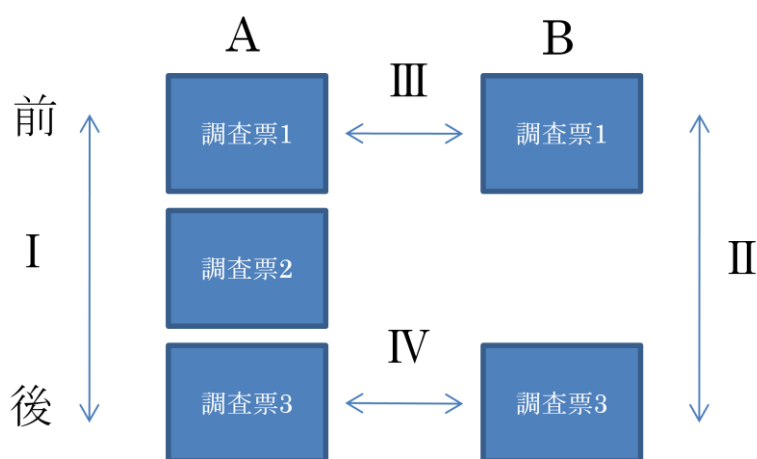


図 7. 調査2の方法

(3) 質問紙の作成（付録3）

i) 調査票1は、

- ① フェースシート（年齢・国籍・性別・学籍・学部の専攻・日本語の勉強期間・来日の目的）の7項目、
- ② 適応状態の2尺度25項目、
- ③ 交友状況を5項目。

適応状態の2尺度は早矢仕（1996）の外国人留学生の適応尺度を参考にして、心身状態、学習、生活習慣、交友、客観的な見方、円滑なコミュニケーションの6領域から適応状態に関する尺度を作成した。

ii) 調査票2は違和感について操作的調査を行うものである、調査1でのインタビューを参考にして独自に作成した。

iii) 調査票 3 は調査票 1 と同じである (ただし, ①のフェースシートを除く).

選択肢は「①当てはまる, ②少し当てはまる, ③あまり当てはまらない, ④当てはまらない」の 4 段階を設定した.

(4) 分析方法

適応に関する質問項目について, 4 段階の選択肢 (①当てはまる, ②少し当てはまる, ③あまり当てはまらない, ④当てはまらない) に値 (1, 2, 3, 4) を割り当てた. ただし, 否定的な質問項目に対しては, 選択肢の値を反転した (4, 3, 2, 1).

A グループで操作的調査を行う前と後の比較によって, 変化があるかどうかを見るため, 次式 (1) で計算した. 各質問項目の前後の差の絶対値を取って, それらの総和をとる. B グループについても同じ方法で計算する (2).

$$Q_{\ell}A_{\text{前後}} : \sum_i |Q_{\ell\text{前}}A_i - Q_{\ell\text{後}}A_i| \quad (1)$$

$$Q_{\ell}B_{\text{前後}} : \sum_j |Q_{\ell\text{前}}B_j - Q_{\ell\text{後}}B_j| \quad (2)$$

ここで, 各記号は次のような定義される.

Q_{ℓ} : 質問項目 (ℓ : 質問項目の番号, $\ell=1, 2, \dots, 14$.)

A_i : 調査対象 (i : 調査対象者の識別番号, $i=1, 2, 3$.)

B_j : 調査対象 (j : 調査対象者の識別番号, $j=4, 5, 6$.)

前: 調査的調査が実施される前の調査票 1 を指す.

後: 操作的調査が実施された後の調査票 2 を指す.

従って, $Q_{\ell\text{前}}A_i$ とは, 調査 1 における A グループの調査対象者 i の質問項目 ℓ の回答と意味する. A グループに属する式 (1) 従って, 同じ調査対象者による同じ質問に対する回答がどう変化したのかを表す. この値の絶対値をとり, すべての調査対象で合計しているので, 式 (1) は A グループ全体での質問項目 ℓ に対する変化の総量を計っていることになる. ここで, 絶対値を取っているのは, 調査対象者によって, 選択肢の値が上昇方向に変わる場合と下降方向に変わる場合があるが, それぞれ打ち消されないようにするためである. 同様に, 式 (2) の「 $Q_{\ell}B_{\text{前後}}$ 」は B グループ全体での質問項目 ℓ に対する変化の総量を計っていることになる. すなわち, 図 7 の II である. 式 (1) と式 (2) を比較することで, 図 7 の I と II を比べることができる.

操作的調査前, A グループと B グループの間にどれほど差があるのか, また操作的調査後には, A グループと B グループの間の差が変わったかどうかを調べるため, 次式 (3) と (4) で計算した. (3) は操作的調査前 A グループと B グループの差の絶対値の総和を表した. (4) は操作的調査, A グループと B グループの差の絶対値の総和を表した.

$$Q_{\ell\text{前}} AB : \sum_i \sum_j | Q_{\ell\text{前}} A_i - Q_{\ell\text{前}} B_j | \quad (3)$$

$$Q_{\ell\text{前}} AB : \sum_i \sum_j | Q_{\ell\text{後}} A_i - Q_{\ell\text{後}} B_j | \quad (4)$$

Q_{ℓ} : 質問項目 (ℓ : 質問項目の番号, $\ell=1, 2, \dots, 14$.)

A_i : 調査対象 (i : 調査対象者の識別番号, $i=1, 2, 3$.)

B_j : 調査対象 (j : 調査対象者の識別番号, $j=4, 5, 6$.)

前 : 調査的調査が実施される前を指す.

後 : 操作的調査が実施された後を指す.

2.2.2 インタビュー

(1) インタビューの対象者

アンケート調査の結果で見られた事象の原因を探るため, 6 人の留学生 (アンケート調査対象者全員) に半構造化インタビューを行った. 2008 年 12 月 17 日と 18 日に一人約 30 分程度の単独インタビューを行った.

(2) 質問項目 (付録 4)

アンケート調査の結果からインタビュー調査の質問項目を次のように構成した.

- 来日の目的は何か?
- 日本人または他の外国人との積極的な付き合いがあるか?
- 接触相手とのコミュニケーションに関して満足 (不満) しているが, その理由は何か?
- 日本人に仲間にいれてもらえないと感じる (感じない), なぜそう感じるのか?
- 研究室の人また同国人の先輩や同級生以外, あまり接触していない原因は何か?

第3章 結果

前章では調査の方法について論じた。本章では，その方法に従った調査の結果を示す。

3.1 調査1

3.1.1 アンケート調査の結果

(1) 留学生の基本属性と日本人学生の基本属性はそれぞれ表 3，表 4 のようになっている。

表 3 留学生の基本属性 ($N=25$)

		人数
国籍	中国出身	25
性別	男性	6
	女性	19
年齢層	22～25	14
	26～30	10
	無回答	1
学籍	修士課程	25
学部の専攻	文系	25
留学年数	1 年未満	9
	1 年以上 2 年未満	1
	2 年以上 3 年未満	4
	3 年以上 4 年未満	0
	4 年以上 5 年未満	2
	5 年以上 6 年未満	8
	6 年以上	1

表 4 日本人学生の基本属性 (N=30)

		人数
性別	男性	28
	女性	2
年齢層	22～25 歳	26
	26～30 歳	0
	30 歳以上	4
学籍	修士課程	30
学部の専攻	文系	6
	理系	24

日本人学生は 22～25 歳までの者がほとんどであるが、留学生の場合は 22～25 歳の者が 14 人で、26～30 歳の者が 10 人と年齢層に若干広がりがある。留学生は全員中国出身であり、学部に関しても全員が文系である。留学年数は 3 年未満と 4 年以上に分かれている。日本人学生の場合は理系出身者が最も多く 24 人である。

(2) 留学生が日本へ留学する目的

留学生日本へ留学する目的（表 5）では、日本語を習得するため、自分の将来を変えるため、専門的な知識を勉強するため、修士あるいは博士の学位を取るためを選択した者が最も多い。

表 5 来日の目的 (N=25)

	人数
日本語を習得するため	22
自分の将来を変えるため	22
専門的な知識を勉強するため	20
修士あるいは博士の学位を取るため	19
日本という国を深く知るため	11
将来に日本で仕事をするため	6
まだ仕事をしたくないため	4
経済的な目的	3
ただ漠然と母国から離れたかったため	2
その他	1

(2) 違和感について

本校の知識科学研究科の新入生（留学生も含む）を対象にし，違和感に関するアンケート調査を行った．図 9 は日本人学生がグループワーク中に留学生の言動に対して違和感を持つ割合を示したものであり，図 10 は留学生がグループワーク中に日本人学生の言動に対して違和感を持つ割合を示したものである．この中で，日本人学生は留学生に対して 56%と半分以上が違和感に関して当てはまる，あるいは少し当てはまると答えている．また，留学生も日本人学生に対して，44%が違和感に関して当てはまる，あるいは少し当てはまると答えている．結果として，約半分の留学生と日本人学生が互いに何らかの違和感を持っていることが分かった．

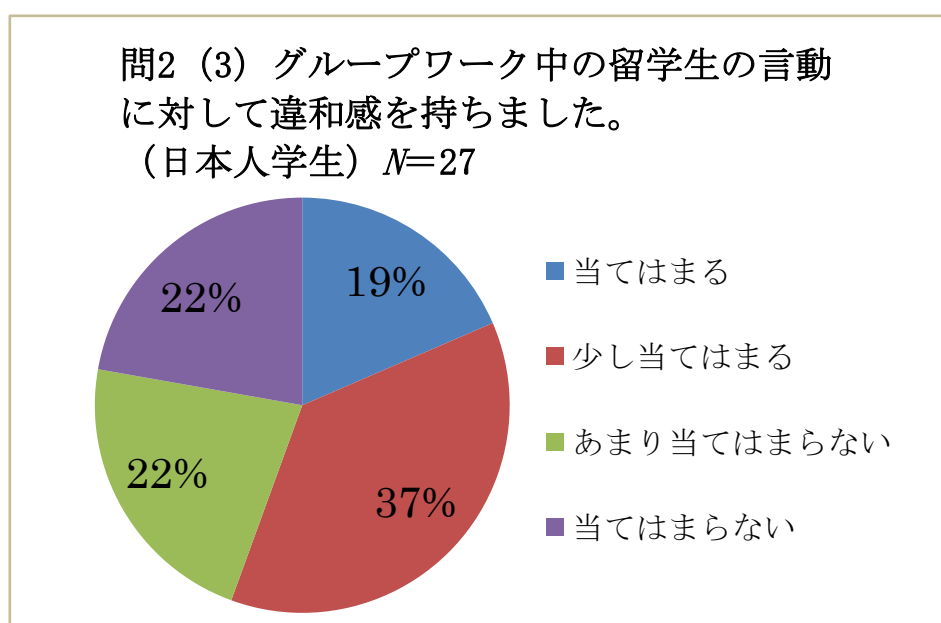


図 8. 違和感を持つ割合（日本人学生）

問4 (3) グループワーク中の日本人学生の言動に対して違和感を持ちました。(留学生) $N=25$

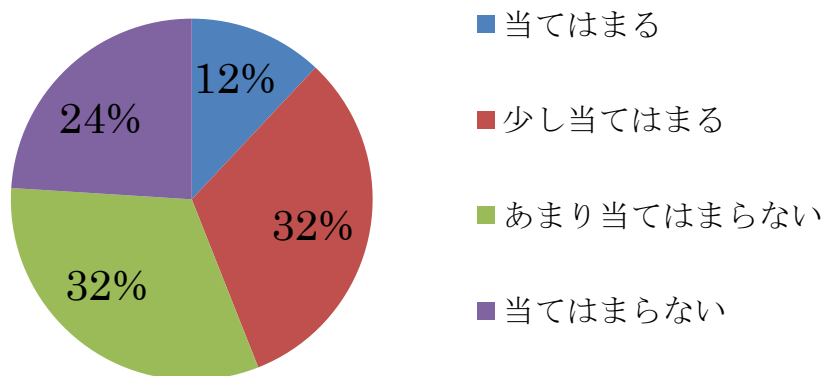


図 9. 違和感を持つ割合 (留学生)

次いで、調査の時点で対象者が持った違和感に関して、それを意識化しているかどうかについて調べた。結果、グループワークの後で、感じた違和を言葉で表せると答えた学生は 29 人中 18 人 (62%) だった (図 11)。

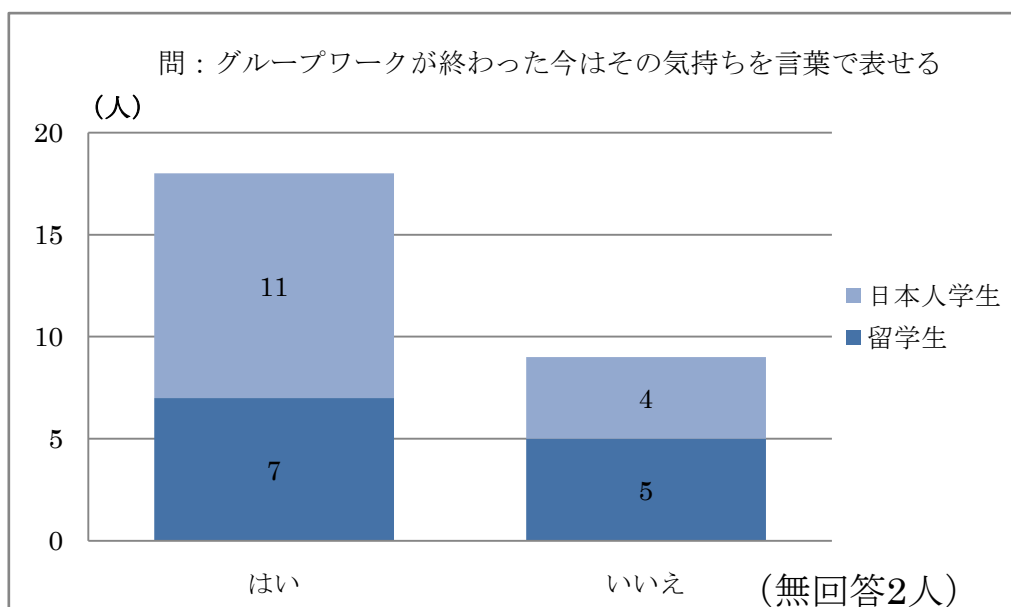


図 10. 違和感の意識化の割合

さらに、どんな要因で違和感を持つことになったのかを調べた。まず、注目したのはグループワークの構成比である。

イノベーション概論でのグループワークにおける留学生と日本人学生の構成比が半々に近く（表 1）、システム科学方法論ではどちらかに偏っている。グループ構成の違いが、違和感の感じ方に影響を与える可能性がある。図 12 に、授業ごとで留学生や日本人学生が互いに違和感を持った割合を示す。構成比が半々であるイノベーション概論で違和感を持つ人は 51%（ $N=49$ ）を占めており、システム科学方法論では 43%（ $N=35$ ）である。この結果からイノベーション概論の方がシステム科学方法論より違和感を持った割合が若干多かったようである。

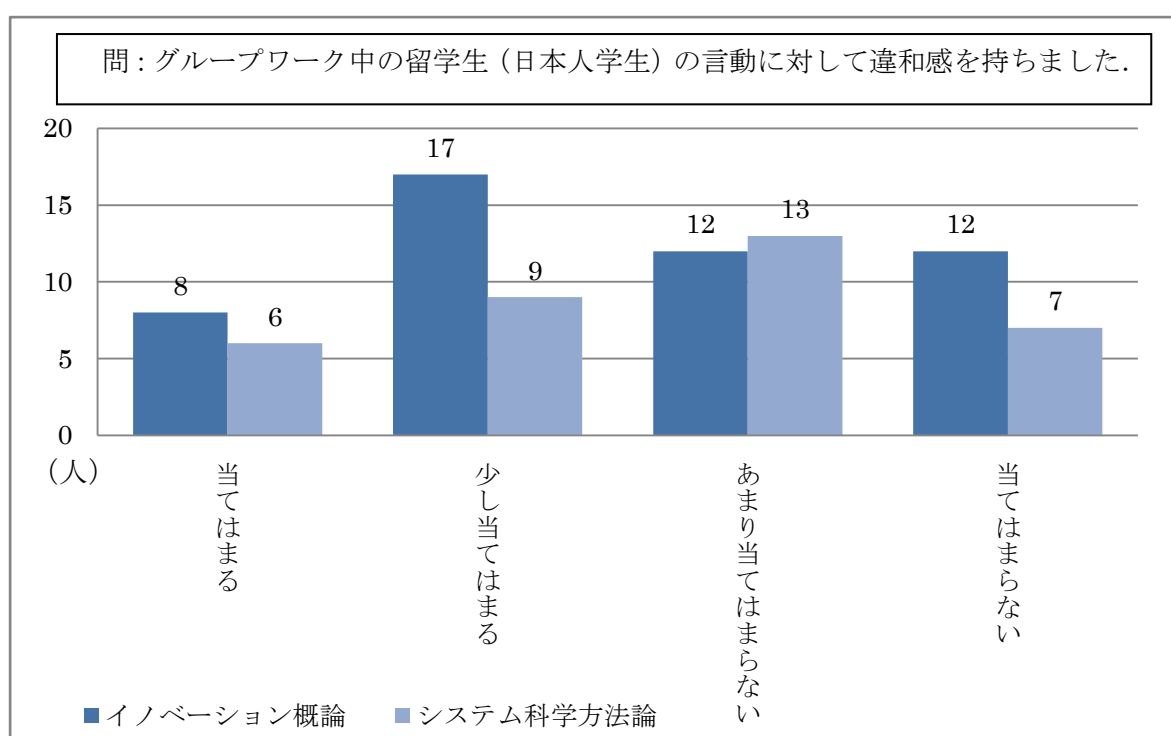


図 11. 授業ごとでの違和感を持つ割合

つぎに、相関分析によって、どのような質問項目が違和感を持ったことと関連しているのかを調べた（付録 5）。相関が高かった（相関係数 $|.400|$ 以上）質問項目は留学生の場合 14 項目中 5 項目、日本人学生の場合 9 項目中 4 項目である（表 6、表 7、表 8）。

表 6 違和感と正の相関がある質問項目（留学生）

問 1 (1) この講義での勉強が進んでいる。	.664
問 3 (4) 寂しくなることがよくある。	.661
問 1 (2) この講義の先生に気楽に話しかけることができる。	.500
問 3 (2) 最近感情の変化が激しい。	.485
問 3 (3) よく母国に帰りたと思う。	.417

表 7 違和感得と正の相関がある質問項目（日本人学生）

問 1 (2) 異なる国の人々と付き合うのは好きではない.	.475
問 1 (1) 他の文化をよりよく知ろうとする理由がない.	.412

表 8 違和感と負の相関がある質問項目（日本人学生）

問 1 (8) 日本と他国の間に存在する国同士の問題について私は相手国の文化的背景を考慮して分析しようとする.	-.478
問 1 (6) 異なる文化の人々の価値観を理解しようとする.	-.394

留学生は、ホームシックの傾向にある学生ほど違和感を持っているようである（表 6）。日本人学生は、他文化を肯定的に見ている人ほど違和感を持っていないようである（表 8）。これらの結果は当然と思える、ただ 1 つ気になるのは、表 6 の問 1 の (1) と (2) である。講義で勉強が進んでいる、あるいは先生にも気楽に話かけるができると答えた学生ほど違和感を持つことが多かったようである。

グループの構成比から見ると、構成比が半々の方が違和感を多く感じている。ただし、現時点のアンケート調査から偏っているグループに入った人たちの違和感の感じ方と半々の構成比における違和感の内実は分らない。

また、相関分析では、勉強に対する姿勢と違和感が関連していることが分かったが、その原因はどこにあるのかが分らない。

以上の問題点を明らかにするため、半構造化インタビューによる聞き取り調査を行った。

3.1.2 インタビュー調査の結果

違和感を持つ原因として、①グループの構成比（留学生と日本人学生半々の場合、違和感を持ちやすい）、②目的あるいは授業に取り組む姿勢（やる気のある人はやる気のない人に対して違和感を持つ）、③言葉の壁（表現能力の限界）の 3 つが挙げられる（付録 6）。留学生と日本人学生の構成比が半々の場合、②と③に対して違和感を持って、その感覚は強く記憶される。留学生と日本人学生の構成比が偏った場合は、②と③があっても、大多数の人は少数の人を避けるという処理方法を選択している。

また、違和感の対処に関して、留学生 4 人の中 3 人が「なぜ相手そのような言動をしたのか」について考えたことがある。日本人学生 4 人の中の 2 人も「なぜ相手そのような言動をしたのかについて考えた」と答えた。しかし、調査者の中に自分が相手に対して持った異和感を納得できた人はいない。異和を「納得できない」人は 2 人、異和を「理解できるけど納得はしない」は最も多い 5 人である。1 人は異和を「納得しようとしている」。以上のインタビュー結果から、異和を納得するにはまだ障害が

ある。

インタビューでは、留学生や日本人学生は互いに対して違和感を持つ以外に、自国人に対しても違和感を持っている。つまり、相手に対して抱く違和感の種類が違う。

3.1.3 調査1結果のまとめ

異文化接触の場としてグループワークを設定し、質問紙調査を行い、約半分の学生は何らかの違和感を持っていることが分かった。そのうち、違和感を意識化している学生は62%を占めている。半構造化インタビューを行って、調査対象に違和感を持つ原因について調べた。調査対象8人のうち5人が「なぜ相手はそのような言動をするのか」について考えた。また、違和感を顕在化した異和を納得できた人はいないが、異和を「理解できるけど、納得しない」8人中5人がいた。この結果から、異文化との接触によって、無意識状態での居心地の悪さがあり、その居心地の悪さについてどんな場所で違和感を持ったのかを言葉で表すとその原因はどこにあるのかを考える、なぜ相手はそのような行動をするのかのような一連な動きによって違和から異和への転換が起こり、その異和を理解できるけど、納得しない状態に留まって、適応まで至っていないことが分かった。

第一章で考えた異文化適応プロセスモデルと一致しており、概略として図13のように構築することができる。

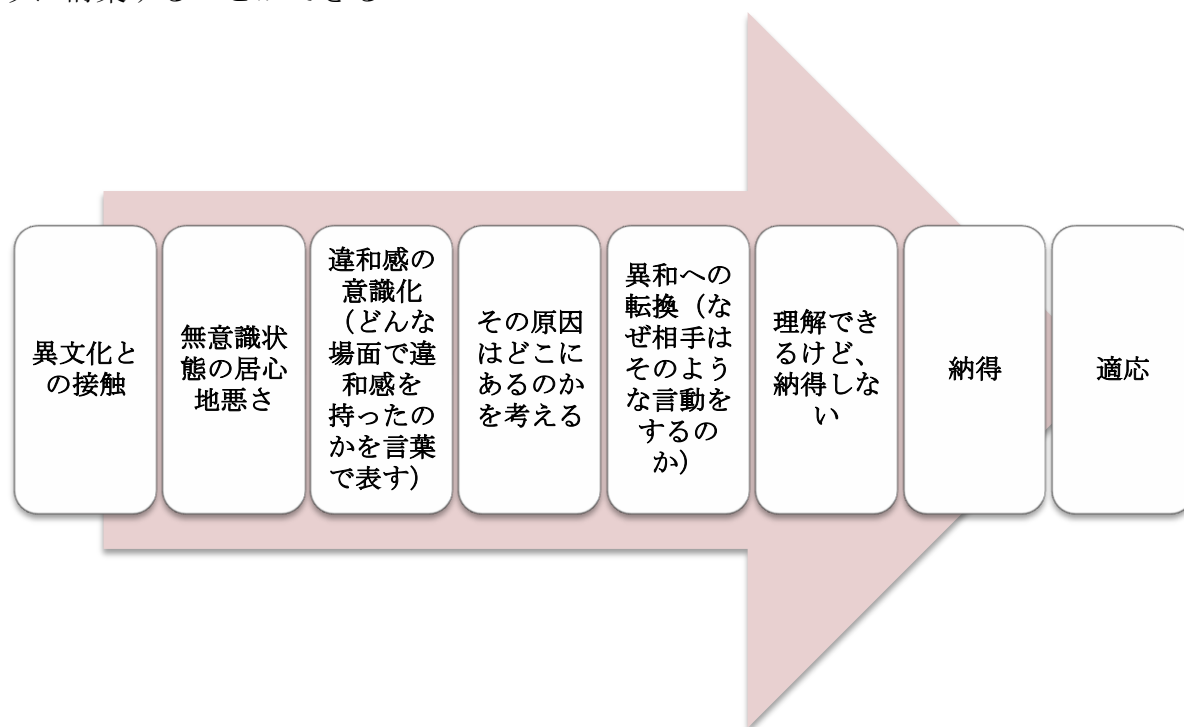


図 12. 異文化適応プロセスモデル

しかし、調査では違和から異和へ転換して、顕在化した異和を納得するにはまだ障

害がある．どうすれば異和を納得し，適応に至ることができるだろう．「納得」と「適応」との間はどのような関係があるだろう．

まず，適応した状態がどんな状態なのかについて考える．石井ら（1997）は「異文化適応（intercultural adaptation）：人が新しい異文化の要求に応え，生活環境と調和した関係を確立及び維持し，日常生活を無事に送られるようになること．」と定義している．理想的な適応状態は，移住者と受入側が互いの態度や生活のパターンなどの違いになれ，ありのままを受け入れる（池田，クレーマ，2000，p.156）であると考え，本研究では，適応の評価軸として次の二つを考える．

- 円滑なコミュニケーション
- 多文化の肯定的な評価

3.2 調査2

調査2では，調査1で構築したモデルの検証を行う．異文化適応プロセスモデルでは，個人がある異文化接触の場面で違和感を持つ場合，違和感を違和から異和への転換という処理方法に従って，適応を促進することができるだろうについて検討する．

3.2.1 アンケート調査の結果

(1) 留学生の基本属性

調査対象の基本属性がほとんど同じで，全員中国出身である．女性で，年齢層は22～23歳である．学部出身は文系で，日本に来る前に4年間日本語を学習している．

(2) 適応に関する結果

表9は操作的調査が実施される前の適応状態尺度1の結果を示したもので，表10は操作的調査が実施された後の適応状態尺度1の結果を示したものである．適応状態尺度1に関して差があることから（表9），相対的に適応状態に近い3名はBグループとする，適応状態から離れている3名はAグループとする．（適応状態尺度1の質問項目は付録3の調査票1の問10に参照，適応状態尺度2は問11に参照．）

表 9 操作的な調査を実施される前の適応状態尺度 1 の結果

	心身状態				学習			生活・習慣			交友			
	Q1	Q2	Q3	Q13	Q4	Q5	Q11	Q9	Q12	Q14	Q6	Q7	Q8	Q10
A	10	7	7	7	9	6	5	6	7	5	12	6	3	9
B	8	4	5	7	3	5	4	6	3	7	8	4	4	8

* 数字がグループ全体の総和¹²である。

表 10 操作的な調査を実施された後の適応状態尺度 1 の結果

	心身状態				学習			生活・習慣			交友			
	Q1	Q2	Q3	Q13	Q4	Q5	Q11	Q9	Q12	Q14	Q6	Q7	Q8	Q10
A	7	6	7	9	7	7	5	6	8	8	9	7	3	6
B	8	6	8	6	5	6	4	6	6	8	9	6	5	7

* 数字がグループ全体の総和である。

適応状態尺度 1 の結果に基づいて（表 9）相対的に適応状態良くない A グループに操作的な調査（調査票 2）を行った。後もう一回両グループにアンケート調査を実施した（調査票 3）。結果、適応状態尺度 1 に関して、操作的調査の実施後の A と B の差が前より小さくなったことが分かった。（表 9 では A と B グループの差の絶対値の総和が 23 である、表 10 では A と B グループの差の絶対値の総和が 5 である。）。

表 11 操作的な調査を実施される前の適応状態尺度 2 の結果

	客観的な見方					円滑なコミュニケーション					
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11
A	5	8	3	3	3	8	8	8	10	8	4
B	6	6	3	3	4	9	9	11	11	11	9

* 数字がグループ全体の総和である。

¹² 質問紙では、質問項目に対する 4 段階の選択肢（①当てはまる、②少し当てはまる、③あまり当てはまらない、④当てはまらない）に値（1, 2, 3, 4）を割り当てた。ただし、否定的な質問項目に対しては、選択肢の値を反転した（4, 3, 2, 1）。このような計算方法によって、数字が小さいほど、適応状態になっている。

表 12 操作的な調査を実施された後の適応状態尺度 2 の結果

	客観的な見方					円滑なコミュニケーション					
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11
A	6	7	5	5	5	9	8	6	11	9	8
B	4	7	4	3	4	8	9	6	11	10	7

* 数字がグループ全体の総和である。

表 11 は操作的調査が実施される前の適応状態尺度 2 に関する結果を示したもので、表 12 は操作的調査が実施された後の適応状態尺度 2 に関する結果を示したものである。結果、操作的調査の実施後の A と B の差が前より小さくなったことが分かった。（表 11 では A と B グループの差の絶対値の総和が 18 である、表 12 では A と B グループの差の絶対値の総和が 10 である。）

また、A グループと B グループは操作的調査によって、グループ自体が変化があるかどうか、あるとしたらどのような変化が起きているのについて調べた。

表 13 適応状態尺度 1 ついてグループ別での比較

		心身状態				学習			生活・習慣			交友			
		Q1	Q2	Q3	Q13	Q4	Q5	Q11	Q9	Q12	Q14	Q6	Q7	Q8	Q10
A 前 A 後	A1	2	0	0	0	0	-1	0	0	0	-1	3	-1	0	0
	A2	1	0	2	0	1	1	-1	0	-1	-1	0	1	0	0
	A3	0	1	-2	-2	1	-1	1	0	0	-1	0	-1	0	3
B 前 B 後	B4	0	-1	0	0	-2	0	0	-1	-1	1	-1	-2	0	1
	B5	0	0	-1	1	0	0	0	0	-1	-1	0	-1	-1	0
	B6	0	-1	-2	0	0	-1	0	1	-1	-1	0	1	0	0

* 緑：良くない方向に向かっている。黄：良い方向に向かっている。数字は動くレベル¹³を示している。

表 13 は適応状態尺度 1 について操作的調査が実施される前後 A グループの差と B グループの差を示したもので、黄で示した「良い方向に向かっている」項目の総和（A が 11 項目、B が 5 項目）を見ると、A グループの方が B よりも相対的に良い方向に

¹³ 4 段階の選択肢（①当てはまる、②少し当てはまる、③あまり当てはまらない、④当てはまらない）に値（1, 2, 3, 4）を割り当てた。ただし、否定的な質問項目に対しては、選択肢の値を反転した（4, 3, 2, 1）。“－”は後の数字が前より小さいであることを指す。

向かっているようである。また、緑で示した「良くない方向に向かっている」項目の総和（A が 11 項目，B が 16 項目）を見ると，B グループの方が良くない方向に向かっているようである。A グループは B グループより変化が大きく（A グループ前後の差の絶対値の総和が 40，B グループ前後の差の絶対値の総和が 25 である。），良い方向に向かっていることが分かった。

表 14 適応尺度 2 についてグループ別で比較

		客観的な見方					コミュニケーションの円滑					
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11
A 前-A 後	A1	-1	1	0	0	-1	1	0	1	0	0	-1
	A2	0	-1	-1	-1	0	-1	0	0	-1	-1	-2
	A3	0	1	-1	-1	-1	-1	0	1	0	0	-1
B 前-B 後	B4	0	-1	0	0	0	2	0	2	0	0	1
	B5	1	0	0	0	0	-1	-1	2	0	0	1
	B6	1	0	-1	0	0	0	1	1	0	1	0

*緑：良くない方向に向かっている。黄：良い方向に向かっている。数字は動くレベルを示している。

表 14 は適応尺度 2 について操作的な調査が実施された前後 A グループの差と前後 B グループの差を示したものである。黄で示した「良い方向に向かっている」項目の総和（A が 5 項目，B が 10 項目）を見ると B グループの方が全体的に良い方向に向かっている。また，緑で示した「良くない方向に向かっている」項目の総和（A が 15 項目，B が 4 項目）を見ると A グループの方が全体的に良くない方向に向かっている。A グループ前後の差の絶対値の総和が 23，B グループ前後の差の絶対値の総和が 17 である。つまり，A グループの変化が B グループより大きい。しかし，良くない方向に向かっている。なぜそうなったのかを明らかにするため，生データに戻って，最終状態の確認をした。最終の状態が A グループと B グループとの差が小さい（表 9）。初期状態として，A グループは B グループより良い状態である。なぜこのような逆状況を生じているのかを理解するため，さらに詳しい比較を行った。問 11 の Q8（日本人たちが話しているところに積極的に参加する）について，ほとんど良い方向に向かっている。なぜなら，最終状態として全員が「当てはまる」を選択しているからである。つまり積極的に他者とコミュニケーションを取ることである。

表 15 各尺度に対する値の平均

		適応状態尺度 1	適応状態尺度 2	
			客観的な見方	円滑なコミュニケーション
A	前	2.4	1.5	2.6
	後	2.3	1.9	2.8
B	前	1.8	1.5	3.3
	後	2.2	1.5	2.8

各グループは各尺度において、どんな位置にいるのかをみるため、各尺度に対する値の平均を取った。つまり、数字が小さいほど良いである（下図）。

アンケートの尺度に得点を割り当て：			
良い		悪い	
1	2	3	4
①	②	③	④
① 当てはまる			
② 少し当てはまる			
③ あまり当てはまらない			
④ 当てはまらない			

適応状態尺度 1 に関して、B グループの悪化が見られた（表 15 に参照）。適応状態尺度 2 では、客観的な見方に関して、A グループの悪化が見られた。B グループは変化がなかった。円滑なコミュニケーションについて、A グループの悪化が見られた一方 B グループの改善が見られた。なぜこのような事象が起きたのかについて次章で議論をする。

（2）交友状況に関する結果（付録 7）

接触の相手について、ほとんどの対象者は所属する研究室の人（指導教員も含む）と同国人としか接触していない。接触の頻度が最も高いのは一緒に本校に留学する同国人である。その傾向は 2 回目の調査でも変わっていない。

話の内容では、同国人の人とは個人的な話（悩みや相談事など）をするが、日本人または他の外国人との話内容は一般的な内容（ゼミの関連事や日常挨拶など）である。

相手とのコミュニケーションの満足度に関しては A グループの人は 1 回目の時点で

ほとんどが満足しているが、2回目では日本人または他の外国人とのコミュニケーションについて満足していないことが分かった。Bグループの人は1回目では日本人または他の外国人とのコミュニケーションに満足していないことが多く、その傾向が2回目の調査でも変わっていない。

全体として交友関係面に関して、BグループはAグループよりも不満を多く抱いていると言える。

(3) 違和感を持った場面での行動

違和感を持つ場面でどう行動するのかについて調べた。調査票で違和感を持ちそうな場面をつぎのように9つ挙げた。

- ① 授業中にある日本人学生がいたずらをした。
- ② 授業中にある留学生がいたずらをした。
- ③ 自分が当たり前だと思ったことを日本人学生がそう思わなかった。
- ④ 遅刻する人がいる。
- ⑤ 一緒に作業をするとき、やる気がない人がいる。
- ⑥ 自分が言いたいことが相手にうまく伝わらなかった。
- ⑦ 同じ研究室の日本人学生が挨拶しない。
- ⑧ 日本人学生と物事に関しての考え方や進む方向について違いを感じる。
- ⑨ 自分が思っている日本人のイメージと実際に接した日本人と違う。

各場面において、Bグループは消極的な行動をとる傾向場面がAグループより多いという結果である（付録8）。具体的に、

A1は①の場面で「そんなことをしたらよくないと注意をする」という行動を取る。A2、A3とB4、B6が「あんまり関わらないようにする」を選択している。B5はA1と同じ選択をしている。

②の場面ではA1、A3とB5が同じ「そんなことをしたらよくないと注意をする」という行動を取るが、A2とB4が「知っている人だったら注意をする」と答えた。B6は「あんまり関わらないようにする」と答えた。

③の場面では調査対象全員が「なぜ自分がそう思っているのかを相手に説明する」を選択している。

④の場面では、A1が「相手になぜ遅刻するのかを尋ねる」を選択して、A2、A3とB6が「無視する」を選択した。B4は「よくないと思うが、何にも言わない」と答えた。B5は相手に「遅刻しないように注意をする」という行動を取る。

⑤の場面では、B5以外に全員が「相手がやる気を出すように励ます」という行動をとるが、B5は「ほっておく」と答えた。

⑥の場面において、B5以外の全員が「言葉遣いだけではなく、ニュアンスやイメージなどを工夫する」と選択している。B5は「発言を控える」と答えた。

⑦の場面で A グループ全員が「自分から相手に挨拶をする」という行動を取る。B4 と B6 は「自分も挨拶をしない」と選択して、B5 が「相手によって挨拶します」という行動を取る。

⑧の場面では A1, A3 と B6 が「相手に自分の考え方や、やり方の違いについて説明する」という行動を取るが、A2 と B4, B5 が「自分と相手の同意できる考え方や、やり方を探る」という行動を取る。

最後の場面では、A1 と B4, B6 が「どうすればいいのかと自分の取るべき行動について考える」を選択している。A2, A3 と B5 が「日本人に固定観念を抱かないように、個性を尊重する」という行動をと取る。

(4) 対立仮説を考える

アンケート調査の結果では A グループ適応状態の変化は B グループより大きい、また A グループは良い方向に向かって変化していることが分かった。その原因は仮説通り「違和から異和への転換」によるものだろうか。仮説の働きを議論するため、対立仮説を立てる。

対立仮説には

(ア)在席する研究室の環境

(イ)個人の性格（積極的に人と付き合うかどうか）

(ウ)来日の目的（勉強に対する姿勢）

の 3 つが挙げられる。

対立仮説を検証するため、半構造化インタビューを行った。その質問項目（付録 4）は次のようなものである。

- 来日の目的は何か？
- 日本人また他の外国人と積極的に付き合うのか？
- 接触相手とのコミュニケーションに関して満足（不満）であるが、その理由は何か？
- 日本人に仲間に入れてもらえないと感じる（感じない）、なぜそう思うのか？
- 研究室の人また同国人の先輩や同級生以外、あまり接触していないが、その原因は何か？

3.2.2 インタビュー

対立仮説を検証するため、半構造化インタビューによって、聞き出した（ア）、（イ）、（ウ）の 3 つの項目について、その結果を述べる。

（ア）在席する研究室の環境

神谷ら（1999）は、外国人留学生の適応と対人関係に関する研究の中で、「学習・

研究面では指導教官と学科や講座の先生とのコミュニケーションが適応の鍵を握っている」という結果が示した。本研究では、アンケート調査の対象となった6人の被験者が在席する研究室の環境について調べた（表15）。

表 16 在席する研究室の学生の構成

	日本人（人）	留学生（人）
A1	6	3(3)
A2	6	3(3)
A3	12	3(1)
B4	4	10(2)
B5	4	10(2)
B6	4	6(6)

*留学生の人数は自分も含んでいる。（）内の数字が自分も含む中国出身の留学生の人数を示している。

調査対象が在席する研究室には同国人の先輩あるいは同級生がいる。B4 と B5 の指導教授だけ日本人以外の他の外国人である、ほかの被験者の指導教授は日本人である。B グループは前節の交友状況に関するアンケート調査では在席する研究室の日本人学生や先生に対して不満を持っている結果があった。その原因としてひとつ考えられるのは在席する研究室の学生の構成比である。つまり、移住者人数が受入側より多い場合、違和感を持ちやすいだろう。

インタビューで調査対象に「接触相手とのコミュニケーションに関して満足（不満）であるが、その理由は何か？」について尋ねたが、相手に対する不満ではなく、自分自身に対する不満がほとんどだった。その理由は言葉の壁（自分自身の語学力に自信がない）からである。

（イ）個人の性格（積極的に人と付き合うかどうか）

人と積極的に付き合うかどうかについて、全員は日本語の学習として積極的に日本人と付き合う意欲があると答えた。また、この意欲は問 11 の Q8：日本人たちが話しているところに積極的に参加する（表 11）にも表している。

また「自分はどんな性格な人？」を調査対象に尋ねた。「明るい」、「朗らかな人」、「友達が多い」と答えた人がほとんどだった。

（ウ）来日の目的

来日の目的として修士あるいは博士の学位を取るため、日本語の習得と専門的な知識を勉強するための3つが多く挙げられた。目的に関して、調査対象に「自分の目的

に向かってどれくらい達成したのかあるいは近づいたのか」を尋ねた。「全然」、「まったく」という答えが多かった。その理由として「授業が抽象的で、理解できない」、「先生の日本語が聞き取れない」、「何を研究すれば分からない」を挙げられた。

また、「日本人の友達ができない」、「在席する研究室以外の日本人との交流がない」などの声もあった。

3.2.3 調査2結果のまとめ

調査2では、操作的な調査を行うことによってモデルを検証した。まず、1回目の調査で適応状態尺度1に関して適応状態の良くないAグループと適応状態の良いBグループを分けた。その後、Aグループだけに操作的な調査を行った。また、もう一回AグループとBグループにアンケート調査を行った。結果、適応状態尺度1に関してはBグループの悪化が見られた。適応状態尺度2について、Aグループの悪化とBグループの改善が見られた。Aグループは操作的調査が実施される前後、適応状態尺度1と2に関しての変化がBグループより大きい。また、操作的調査が実施される前のAとBの差が後のAとBの差がより小さくなった。両グループは適応の状態まで至ってないことが分かった。

交友関係面に関して、Bグループは不満を多く抱いている。その傾向が2回目の調査でも変わっていない。在席する研究室の学生の構成や自分自身の語学能力による原因が半構造化インタビューでの結果から示唆されている。

違和感を持つ場面でどう行動するのかについて、全体的にBグループは消極的な行動を取る傾向がある。

第4章 議論

本章では、前章の結果から導かれるいくつかの点について議論を行い、本研究で考案した異文化適応プロセスが成り立っているのかについて議論を行う。つぎに、違和から異和への転換が果たす適応の効果を検討し、違和から異和への転換プロセスが異文化適応を促進することを主張する。最後に、モデルに従い、移住者と受入側が互いに感じた違和について議論を行うワークショップの開催を提案する。

4.1 異文化適応プロセスモデル

調査1で質問紙調査とインタビュー調査を通じて、異文化適応プロセスモデルを構築した。調査2でそのモデルの検証を行った。調査2の結果では、

(1) 適応状態尺度1（違和と相関が高かった領域）に関して、Bグループだけが悪化した。

操作的調査では、違和感を抑えることによって、適応状態尺度1の悪化が防がれたからだと考えられる。なぜなら、違和感と心身状態領域との相関が高かったため（付録5）、違和感を抑える（違和から異和へ転換する）ことによって、心身状態の悪化も抑えるのではないかと考える。

(2) 適応状態尺度2（客観性、円滑なコミュニケーション）について、Aの方が悪化した。

その原因として、考えられるのは研究室の環境と違和の顕在化である。

まず、研究室の環境に関して、Aグループが在席する研究室には日本人学生が多い（表16に参照）。Bグループは在席する研究室には留学生が多い。また、研究室の日本人学生に対するコミュニケーションの満足度について、Aグループは満足している、Bグループが満足していないと答えた（付録7）。つまり、日本人学生と多く話をする、円滑なコミュニケーションを悪化するのではないかと考えられる。日本語の学習といった目的で、たくさんコミュニケーションをするとたくさん勉強になるという点に関して満足していると考えられる。

また、違和の顕在化が考えられる。なぜなら、1回目の調査ではAグループとBグループが違和感を持っていることが分かった。Aグループに操作的調査によって、違和を異和へ転換させたが、異和を納得するまで至っていなかった。つまり、異和を納得しないと適応まで至らないのではないかと考えられる。

(3) 異和の納得した状態には至っていない。

異和の納得から適応までの取り組みを明らかにするといった目的を達成できなか

った。では、どうすれば異和を納得して、適応に至ることになるのかを考え、次のような他者への違和について議論を行うワークショップを提案する。

4.2 提案

異文化コミュニケーションの問題解決のため、どのような取り組みをすればよいのだろうか。

留学生から「日本人の友達ができない」、「日本人の言葉遣いが曖昧で、本音と建前がよく分からない」という声をよく耳にする。また「日本人学生と留学生とのグループワークはうまくいかない」という声も聞かれる。

調査2のアンケート調査から留学生は研究室の人（先生も含む）と同国人の先輩や同級生以外に、あまり接触していないという結果がある（添付資料6）。その後のインタビューで原因を探った。その原因は研究室以外の学生との接触のチャンスがないことと、どう接触すればよいのか分からない（つまり話題がない）ことである。

八代ら（1998）は次のようなケーススタディの形で異文化トレーニングを行う。（p.78）

例：「最近自分の回りで起こったうまくいかなかったコミュニケーション事例を思い浮かべ、それを内容面、関係面の二つの意味次元を使って考えてみましょう。

うまくいかなかった事例の簡単な描写（誰がどこで何を誰に言ってどうなったか）：
内容面（何が言われたのか）の意味づけ：

関係面（どのように言われたのか）の意味付け：」

ここでの内容面とは「メッセージを構成する言葉や明示的な行動、表面的な見かけの意味上の一次元をさし」、関係面とは「誰が誰に発言（行動）したのか、どのような関係なのか、親密度はあるのか、など」ということである。

八代らはこのような方法で内容面と関係面の解釈の違いに気付くことによって、移住者の異文化コミュニケーションの理解に役に立つと考えている。

八代らの異文化トレーニングの方法は当事自身が実際に身近に存在している異文化コミュニケーションの問題の解決にとって役に立つが、あくまでも自分考えと自分が思っている他者の考えを比較しているだけである。実際に他者がどのような考えでそのような行動を取るのかは分からない。

本研究では、「自」と「他」を客観的に捉えるため、留学生（移住者）と日本人学生（受入側）が互いに感じた違和について議論を行うワークショップの開催を提案する。異文化適応プロセスモデルに従うプログラムを行うことによって、異和の状態へ転換させ、自分と他者との違いを客観的に捉えることができようになるだろう。

そのプロセスは具体的につぎのように考えている。

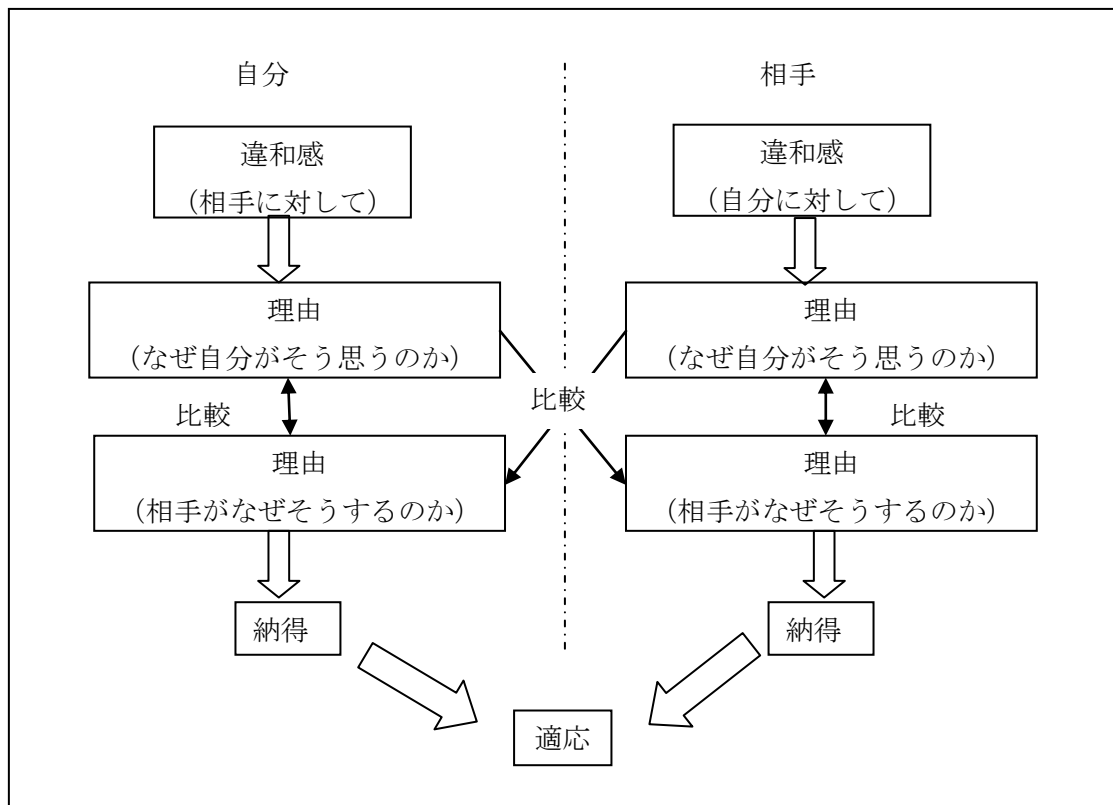


図 13. ワークショップの議論方法のイメージ図

- ① 移住者と受入側がどんな場面で相手に対して違和を持ったのかについて語る.
- ② なぜ自分がそう感じるのかと自分が思った相手に理由について説明する.
- ③ 相手になぜそうするのかを尋ねる.
- ④ 自分と相手との違いを探し出す.
- ⑤ 次に表のまとめる.

	自分	相手
どのような場面で相手に対して違和感を持ったのか？		
なぜ自分が相手に対して違和感を持ったのか？		
なぜ相手がそうするのか？		
実際、相手がそのような行動をする理由		
自分と相手の違いはどこにあるのか？		
自分と相手との違いについて納得しているのか？		
納得する理由		
納得しない理由		
理解できるけど、納得しない理由		

このワークショップでは主に3つのことを達成する。まず、違和から異和にさせる。つぎは、異和を共有することで納得させる。また、納得しない点を考えさせる。以上のことによって、異和の納得を促進することができるのではないだろうかと考えられる。

第5章 結論

前章までの結果と議論を踏まえて、本研究の問題点と課題を論じたうえ、本論文の結論を述べる。

5.1 本研究の問題点と課題

(1) グループ分け

調査2では、違和感の変化に注目して適応状態尺度1の結果から適応状態の良いグループと適応状態の良いグループに分けた。しかし、調査対象者が適応状態には至っていなかったため、適応状態尺度2(客観的な見方と円滑なコミュニケーション)に関してAグループの悪化とBグループの改善が見られた。適応状態の変化を測るには、各尺度の値が等しくなるようにグループ分けるべき。

(2) モデルの検証対象

本研究は移住者だけを対象にモデルの検証を行った。サンプル数が少ない。また、受入側も違和感を持っているが、必ずしも移住者と同じ点に違和感を感じているわけではない。今後、受入側を対象者にするモデルの検証が必要である。

(3) 調査のタイミング

調査対象者が来日後間もなく(調査の時点では来日2ヶ月)、異和の納得から適応まで至らなかった。適応の時期に関して、御堂岡(1997)は「異文化社会に入ってから3ヶ月から18ヶ月くらいの間に、不適応になることが多い」と指摘した。この指摘から違和から異和への転換が果たす効果を検証するため、操作的調査は3ヶ月以降にすべき。

5.2 結論

本研究では違和感の視点から移住者と受入側の両方が変化していく異文化適応プロセスをモデル化することを試みる。

まず、北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士前期課程の新入生を対象にし、アンケート調査と半構造化インタビューを通じて、実際に起きている異文化への適応プロセスを調査した。アンケート調査では移住者と受入側の両者が互いに関して何らかの違和感を持っている。持った違和感の場面について言葉で表せる人がいる。半構造化インタビューでは調査対象が違和感を持つ原因を考え、自分に違和感を持たせた相手の理由にいても考え、自分と相手との違いについて理解できるけど納得しな

いことが分かった。この結果から異文化適応プロセスモデルはつぎのように構築した（図 15）。

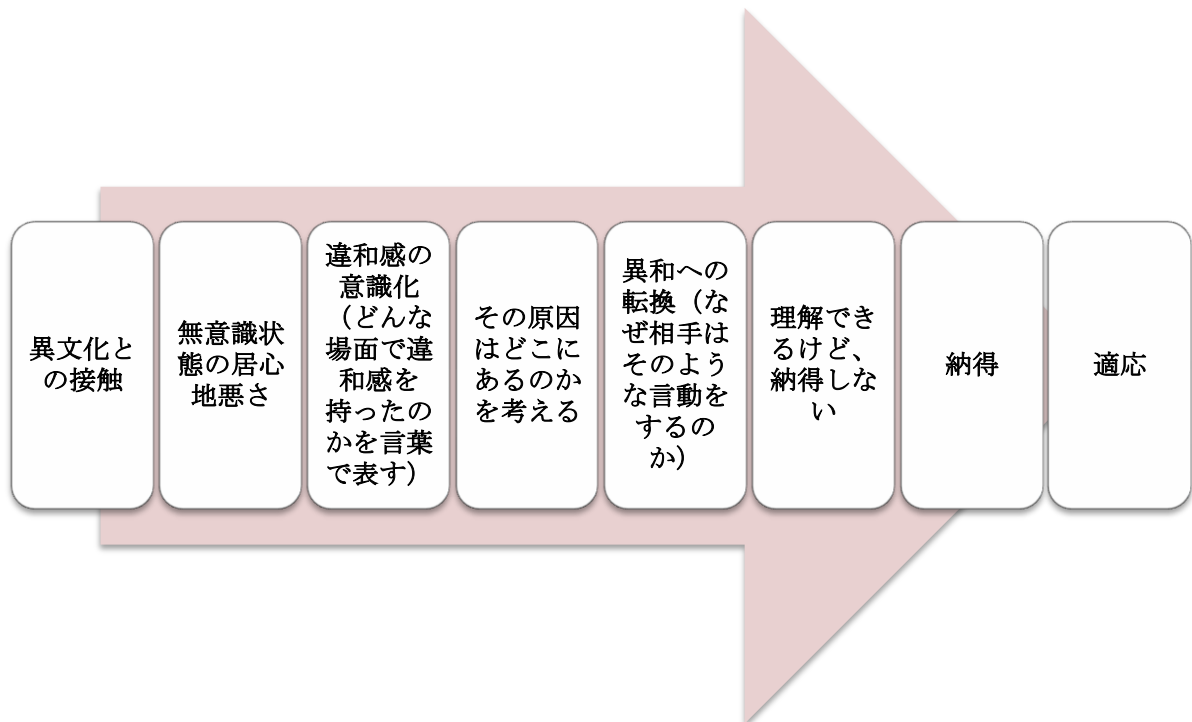


図 14. 異文化適応プロセスモデル

移住者と受入側の異文化接触によって、相手の言動対して何らかの違和感（無意識状態の居心地悪さ）を持つことになる。その居心地悪い感覚を意識することによって、移住者（あるいは受入側）自身がどんな場面で違和感を持ったのかを言葉で表すことができる。つぎに、移住者（受入側）がその原因はどこにあるのかを考える。さらに、なぜ相手はそのような言動をするのかを考え、自分と他者との違いを比較することによって、異和へ転換することになる。しかし、異和をすぐに納得しない場合がある。異和を納得することによって適応に繋がる。

つぎに、来日間もなく中国出身の留学生 6 名を対象にし、アンケート調査と半構造インタビューを通じて、異文化プロセスモデルの検証を行った。違和感と相関がある適応状態尺度 1 のアンケート調査の結果から、調査対象を相対的に適応状態良くないグループと良いグループに分けた。適応状態良くないグループだけに操作的な調査を行った。その後もう一回アンケート調査を行った。違和から異和への転換によって、心身状態の悪化を防ぐ可能性がある。

最後に、移住者と受入側が互いに感じた違和について議論を行うワークショップの開催を提案した。現実の異文化コミュニケーションの問題解決するため、違和から異和への転換プロセスはひとつの手段として応用する。違和を異和へ転換させ、さら

に異和の納得を促進するためのワークショップの開催によって、適応に至る可能性が開けるのではないだろうか.

付録

付録 1

調査票（留学生用） 前

JAIST の留学生の異文化適応に関するアンケート

知識科学研究科 橋本研究室

陳 殊帆

E-mail : s0750034@jaist.ac.jp

お願い

調査 2 は, JAIST に来ている留学生の現状を調べるアンケートです. この調査の結果はすべて統計的に処理しますので, 名前などが公表されることはありません. 自分の実際に従って答えてください. よろしくお願いいたします.

あなた自身のことについてお尋ねします. 当てはまる数字に丸をつけてください. 空欄は数字または文章でお答えしてください.

1. 名前 :
2. 国籍 :
3. 年齢 :
4. 性別 ①男性 ②女性
5. 留学期間 : 年 ヶ月
6. 学籍 ①研究生 ②修士課程 ③博士課程
7. 学部の専攻 ①文系 ②理系
8. あなたは来日以前に日本語を勉強したことがありますか.
(ア)①はい ②いいえ
9. 問 8 で「はい」と答えた方だけお答えください. どれぐらいの期間日本語を勉強しましたか.
① 1 年未満 ② 1 年以上 2 年未満 ③ 2 年以上 3 年未満 ④ 3 年以上
次のそれぞれの質問について, 最も当てはまるものに丸をつけてください.
10. JAIST での学習についてお尋ねします.
 - (1) この講義での勉強が進んでいる.
① 当てはまる ② 少し当てはまる ③ あまり当てはまらない ④ 当てはまらない
 - (2) この講義の先生に気楽に話しかけることができる.
① 当てはまる ② 少し当てはまる ③ あまり当てはまらない ④ 当てはまらない
 - (3) この講義のやり方は効果的である.
① 当てはまる ② 少し当てはまる ③ あまり当てはまらない ④ 当てはまらない

(4) 勉強や研究が楽しい.

① 当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(5) 勉強する気があまりない.

① 当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

11. あなたの日常生活についてお尋ねします.

(1) 日本人の間接的な表現を理解できる.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(2) 自分が外国人なので, 自分の行動が制限されているように感じる.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(3) 日本人がする飲み会は面白い.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(4) 現在の住まいの住み心地に満足している.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(5) 日本の食べ物で困ることがよくある.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

12. あなた現在の心身状態をお尋ねします.

(1) 最近なんとなく不安である.

① 当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(2) 最近感情の変化が激しい.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(3) よく母国へ帰りたと思う.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(4) 寂しくなることがよくある.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

13.あなたの来日の目的は何ですか. 当てはまるものをすべてに丸をつけてください.

① 修士あるいは博士の学位を取るため.

② 日本語を学ぶため.

③ 専門的な知識を勉強するため.

④ 日本という国を深く知るため.

⑤ 仕事をしたくないために留学する.

⑥ 経済的な目的.

⑦ 自分の将来を変えるため.

⑧ 将来, 日本に残って仕事したい.

- ⑨ ただ漠然と母国から離れたかった.
- ⑩ その他. 以下に理由を書いてください.

[]

次のそれぞれの質問について, 最も当てはまるものに丸をつけてください.

14. あなたは JAIST に入学する前にグループワークをしたことがありますか.

- ①はい ②いいえ

15. 問 14 で「はい」と答えた方だけお答えください. グループに日本人学生が入っていましたか.

- ①はい ②いいえ

16. 問 15 で「はい」と答えた方だけお答えください.

グループワークを円滑に行うことができた.

- ① 当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

以上で質問はおわりです.

お疲れ様でした. ご協力を感謝いたします.

調査票（留学生用）後

JAIST の留学生の異文化適応に関するアンケート

知識科学研究科 橋本研究室

陳 殊帆

E-mail : s0750034@jaist.ac.jp

お願い

調査2は、JAIST に来ている留学生の現状を調べるアンケートです。この調査の結果はすべて統計的に処理しますので、名前などが公表されることはありません。自分の実際に従って答えてください。よろしくお願いいたします。

名前：

◆次の1，2，3，4のそれぞれの質問について、最も当てはまると思う数字に丸をつけてください。

1. JAIST での学習についてお尋ねします。

(1) この講義での勉強が進んでいる。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(2) この講義の先生に気楽に話しかけることができる。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(3) この講義のやり方は効果的である。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(4) 勉強や研究が楽しい。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(5) 勉強する気があまりしない。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

2. あなたの日常生活についてお尋ねします。

(1) 日本人の間接的な表現を理解できる。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(2) 自分が外国人なので、自分の行動が制限されているように感じる。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(3) 日本人がする飲み会は面白い。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(4) 現在の住まいの住み心に満足している。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(5) 日本の食べ物で困ることがよくある。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

3. あなた現在の心身状態をお尋ねします.

(1) 最近なんとなく不安である.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(2) 最近感情の変化が激しい.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(3) よく母国へ帰りたと思う.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(4) 寂しくなることがよくある.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

4. グループワークの進展状況についてお尋ねします.

(1) グループワークを何回行いましたか.

① 1 回 ② 2 回 ③ 3 回 ④ 4 回 ⑤ 5 回以上

(2) グループワークは円滑に行われた.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(3) グループワーク中の日本人学生の言動に対して、違和感を持った.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(4) 問 4 の (3) で①あるいは②を選んだ方にお尋ねします.

グループワークが終わった今はその気持ちを言葉で表すことができますか.

①はい ②いいえ

(5) グループワークが終わった今、最初を振り返ってみると、日本人学生の言動で
気に入らない点があった.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(6) 問 4 の (5) で①あるいは②を選んだ方にお尋ねします. どこが気に入らなかったのかを言葉で表すことができますか.

①はい ②いいえ

◆以下の 5, 6 の質問について、当てはまるを思う数字すべてに丸をつけてください。
また、その他を選択した際には、具体的にお書きください。

5. 自分と日本人学生はどこが共通していますか。

- ① 自分がしたいことよりグループのメンバーとの協力を優先する
- ② グループのメンバーとの協力より自分がしたいことを優先する
- ③ 意見が対立した時、相手の意見を無視する
- ④ 意見が対立した時、相手を説得する
- ⑤ 意見が対立した時、討論し、互いに納得できる結論を出そうとする
- ⑥ 意見が対立した時、自分の意見を引き下げる
- ⑦ グループワークの成果より雰囲気重視する
- ⑧ グループワークの雰囲気より成果を重視する
- ⑨ 明確な言葉でコミュニケーションする
- ⑩ 抽象的な言葉でコミュニケーションする
- ⑪ グループワークは、できるだけ早く終わらせたい
- ⑫ グループワークでは、よく議論し、時間をかけて良いものを提出したい
- ⑬ グループワークより、自分ひとりでやったほうが良い
- ⑭ 自分ひとりでやるより、グループワークのほうが良い
- ⑮ その他[]

6. 自分と日本人学生はどこが違いますか。

- ① 自分がしたいことよりグループのメンバーとの協力を優先する
- ② グループのメンバーとの協力より自分がしたいことを優先する
- ③ 意見が対立した時、相手の意見を無視する
- ④ 意見が対立した時、相手を説得する
- ⑤ 意見が対立した時、討論し、互いに納得できる結論を出そうとする
- ⑥ 意見が対立した時、自分の意見を引き下げる
- ⑦ グループワークの成果より雰囲気重視する
- ⑧ グループワークの雰囲気より成果を重視する
- ⑨ 明確な言葉でコミュニケーションする
- ⑩ 抽象的な言葉でコミュニケーションする
- ⑪ グループワークは、できるだけ早く終わらせたい
- ⑫ グループワークでは、よく議論し、時間をかけて良いものを提出したい
- ⑬ グループワークより、自分ひとりでやったほうが良い
- ⑭ 自分ひとりでやるより、グループワークのほうが良い
- ⑮ その他[]

以上で質問はおわりです。

お疲れ様でした。ご協力感谢您いたします。

調査票（日本人学生用）前

JAIST の日本人学生の異文化適応に関するアンケート

知識科学研究科 橋本研究室

陳 殊帆

E-mail : s0750034@jaist.ac.jp

お願い

調査2は、JAIST に来ている日本人学生の現状を調べるアンケートです。この調査の結果はすべて統計的に処理しますので、名前などが公表されることはありません。自分の実際に従って答えてください。よろしくお願いいたします。

あなた自身のことについてお尋ねします。当てはまる数字に丸をつけてください。空欄は文章でお答えてください。

1. 名前：
2. 年齢：
3. 性別 ①男性 ②女性
4. 学籍 ①研究生 ②修士課程 ③博士課程
5. 学部の専攻 ①文系 ②理系

次のそれぞれの質問について、最も当てはまると思うものに丸をつけてください。

6. 異なる国の文化に対する考え方をお尋ねします。

(1) 他の文化についてもっとよく学ぶ理由がない。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(2) 文化の異なる人々と付き合うのは好きではない。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(3) 外見上の違いがあるにせよ、人はみんな同じだ。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(4) 私は自分自身と他国の人々の間にある違いを楽しんでいる。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(5) 他の国に旅行するのは、文化の違いが見られるので良いことだ。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(6) 私は異なる文化の人々の価値観を理解しようとしている。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(7) 私は異なる文化の人々という時は、自分の文化の人々という時とは違う行動する。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(8) 自国と他国の間に何らかの問題が起こったとき、私はその問題を二つ以上の文

化的なものの見方から分析する.

- ①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

次のそれぞれの質問について、当てはまる数字に丸をつけてください。空欄は文章でお答えしてください。

7. あなたは日本国内で JAIST に入学する前に留学生と接したことがありますか。
(ア)はい ②いいえ
8. 問 7 で「はい」と答えた方にお尋ねします。それはどんな状況、どんな場所ですか。(複数回答可)

9. あなたは JAIST に来る前にグループワークをしたことがありますか。

- ①はい ②いいえ

10. 問 9 で「はい」と答えた方だけお答えください。グループに留学生が入っていましたか。

- ①はい ②いいえ

11. 問 10 で「はい」と答えた方だけお答えください。

グループワークを円滑に行うことができました。

- ①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

以上で質問はおわりです。

お疲れ様でした。ご協力を感謝いたします。

調査票（日本人学生用）後

JAIST の日本人学生の異文化適応に関するアンケート

知識科学研究科 橋本研究室

陳 殊帆

E-mail : s0750034@jaist.ac.jp

お願い

調査2は, JAIST に来ている日本人学生の現状を調べるアンケートです. この調査の結果はすべて統計的に処理しますので, 名前などが公表されることはありません. 自分の実際に従って答えてください. よろしく願いいたします.

名前:

◆次の1, 2のそれぞれの質問について, 最も当てはまると思う数字に丸をつけてください.

1. 異なる国の文化に対するあなたの考え方をお尋ねします. (あなたが日本にいる場合を前提にしてお答えください)

(1) 他の文化をより良く知ろうとする理由がない.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(2) 異なる国の人々と付き合うのは好きではない.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(3) 外見上の違いで人との接し方を変える.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(4) 自分と他国の人々の間にある違いを楽しんでいる.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(5) 他の国に旅行するのは, 文化の違いが見られるので良いことだ.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(6) 異なる文化の人々の価値観を理解しようとする.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(7) 異なる国の文化の人々に, 日本人と接する時と違う接し方をする.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(8) 日本と他国の間に存在する国同士の問題について、私は相手国の文化的背景を考慮して分析しようとする。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(9) 自分と外国人の間に個人的な利害の対立があったら、私は相手の文化的背景を考慮して考えようとする。

① 当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

2. グループワークの進展状況についてお尋ねします。

(1) グループワークを何回行いましたか。

① 1回 ② 2回 ③ 3回 ④ 4回 ⑤ 5回以上

(2) グループワークは円滑に行われた。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(3) グループワーク中の留学生の言動に対して、違和感を持った。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(4) 問2の(3)で①あるいは②を選んだ方にお尋ねします。

グループワークが終わった今はその気持ちを言葉で表すことができますか。

①はい ②いいえ

(5) グループワークが終わった今、最初を振り返ってみると、留学生の言動で気に入らない点があった。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(6) 問2の(5)で①あるいは②を選んだ方にお尋ねします。どこが気に入らなかったのかを言葉で表すことができますか。

①はい ②いいえ

◆以下の3, 4の質問について、当てはまるを思う数字すべてに丸をつけてください。
また、その他を選択した際には、具体的にお書きください。

3. 自分と留学生はどこが共通していますか。

① 自分がしたいことよりグループのメンバーとの協力を優先する

- ② グループのメンバーとの協力より自分がしたいことを優先する
- ③ 意見が対立した時，相手の意見を無視する
- ④ 意見が対立した時，相手を説得する
- ⑤ 意見が対立した時，討論し，互いに納得できる結論を出そうとする
- ⑥ 意見が対立した時，自分の意見を引き下げる
- ⑦ グループワークの成果より雰囲気重視する
- ⑧ グループワークの雰囲気より成果を重視する
- ⑨ 明確な言葉でコミュニケーションする
- ⑩ 抽象的な言葉でコミュニケーションする
- ⑪ グループワークは，できるだけ早く終わらせたい
- ⑫ グループワークでは，よく議論し，時間をかけて良いものを提出したい
- ⑬ グループワークより，自分ひとりでやったほうが良い
- ⑭ 自分ひとりでやるより，グループワークのほうが良い
- ⑮ その他

[]

4.自分と留学生はどこが違いますか.

- ① 自分がしたいことよりグループのメンバーとの協力を優先する
- ② グループのメンバーとの協力より自分がしたいことを優先する
- ③ 意見が対立した時，相手の意見を無視する
- ④ 意見が対立した時，相手を説得する
- ⑤ 意見が対立した時，討論し，互いに納得できる結論を出そうとする
- ⑥ 意見が対立した時，自分の意見を引き下げる
- ⑦ グループワークの成果より雰囲気重視する
- ⑧ グループワークの雰囲気より成果を重視する
- ⑨ 明確な言葉でコミュニケーションする
- ⑩ 抽象的な言葉でコミュニケーションする
- ⑪ グループワークは，できるだけ早く終わらせたい
- ⑫ グループワークでは，よく議論し，時間をかけて良いものを提出したい
- ⑬ グループワークより，自分ひとりでやったほうが良い
- ⑭ 自分ひとりでやるより，グループワークのほうが良い
- ⑮ その他

[]

以上で質問はおわりです.

お疲れ様でした. ご協力を感謝いたします.

付録 2

調査 1 の質問リスト

1. どんな場面で違和感を持ちましたか？
2. 相手のどんな行動あるいは言葉によって、違和感を持ちましたか？
3. 個人に対し、あるいはグループ全体に対して違和感を持ちましたか？
相手は留学生でしたか？日本人学生でしたか？（国籍との関連性）
4. その違和感の起因は日本人と留学生とのグループ構成でしたか？（グループの構成比との関係）
5. そもそもグループワークという方法に対してどんな考えでしたか？
6. 課題内容による原因でしたか？
7. どのような目的で授業を受けましたか？（あるいは授業に取り組む姿勢）
8. グループワークの討論が多かったですか？
9. 討論はうまく行えましたか？うまく行えなかったら、その原因は何でしたか？
10. （留学生）心身状態のストレスがあったから、違和感を持ちましたか？
11. （日本人学生）ストレスがありましたか？それは違和感を持ったから？
12. （日本人学生）異なる国の文化に対して積極的な考えでしたか？なぜそう思いますか？
13. イノベーション概論のグループワークで違和感を持ち、システム科学概論の方で違和感を持てなかった（あるいは逆）、その違いの原因はなんですか？
14. 相手はなぜそのような言動をしたのかについて、その理由はなんですか？
15. その違和感に納得しましたか？
16. グループワーク以外でも違和感を持ったことがありますか？
持つことがあったら、どんな場面で？どんな状況で？

付録 3

調査票 1

JAIST の留学生の異文化適応に関するアンケート

知識科学研究科 橋本研究室

陳 殊帆

E-mail : s0750034@jaist.ac.jp

お願い

調査 2 は, JAIST に来ている留学生の現状を調べるアンケートです. この調査の結果はすべて統計的に処理しますので, 名前などが公表されることはありません. 自分の実際に従って答えてください. よろしく願いいたします.

あなた自身のことについてお尋ねします. 当てはまる数字に丸をつけてください. 空欄は数字または文章でお答えください.

1. 国籍 :
2. 年齢 :
3. 性別 ①男性 ②女性
4. 学籍 ①研究生 ②修士課程 ③博士課程
5. 学部の専攻 ①文系 ②理系
6. あなたは来日以前に日本語を勉強したことがありますか.
①はい ②いいえ
7. 問 6 で「はい」と答えた方だけお答えください. どれぐらいの期間日本語を勉強しましたか.
①1 年未満 ②1 年以上 2 年未満 ③2 年以上 3 年未満 ④3 年以上
8. あなた来日の目的は何ですか. 当てはまるものにすべて丸をつけください.
① 修士あるいは博士の学位を取るため.
② 日本語を習得するため.
③ 専門的な知識を勉強するため.
④ まだ仕事をしたくないため.
⑤ 経済的な目的.
⑥ 自分の将来を変えるため.
⑦ 将来日本で仕事をするため.
⑧ ただ漠然と母国から離れたかったため.
⑨ その他のものがある場合に以下にお書きください.

[

]

9. あなたはどんな相手と接触していますか. その相手との接触頻度や話題などについてお尋ねします. 当てはまるものに丸をつけてください.

接触相手		指 導 教 員			他 の 教 員・職員			研究室の 学生			チュータ ーの学生			学 内 の 他 の 学 生			学外の友 人・知人		
相手の国籍		日 本 人	同 国 人	他 の 外 国 人	日 本 人	同 国 人	他 の 外 国 人	日 本 人	同 国 人	他 の 外 国 人	日 本 人	同 国 人	他 の 外 国 人	日 本 人	同 国 人	他 の 外 国 人	日 本 人	同 国 人	他 の 外 国 人
相手 との 接 触 頻 度	毎日																		
	～週 1 回																		
	～月に 1 回																		
	～3 ケ 月 1 回																		
	それ以 下																		
話す 内 容	個人的 な内容																		
	一般的 な内容																		
相手 との コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ンの 満 足 度	満足																		
	やや満 足																		
	あまり 満足し ていな い																		
	不満足																		

10. あなた現在の状況についてお尋ねします。最も当てはまるものに丸をつけてください。

(1) 不安を感じるが多い。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(2) 最近感情の変化が激しい。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(3) よく母国へ帰りたと思う。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(4) この学校の授業に不満がある。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(5) 授業中つまらないと思っている。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(6) 日本人に仲間にいれてもらえないと感じる。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(7) 日本人と付き合うのは面倒である。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(8) 学校内に一緒に行動する友達がいる。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(9) 日本の習慣が好きではない。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(10) 困ったときに相談できる人が日本にいる。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(11) この学校で努力して勉強していることが楽しい。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(12) 日本の生活スタイルが好きだ。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(13) ちょっとしたことが気になる。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(14) 私には日本の生活より国の生活の方が合っている。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

11. あなた日本での社会生活についてお尋ねします。最も当てはまるものに丸をつけてください。

(1) 相手の日本人の気持ちを察して、それに応じた行動をする。

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(2) 自分と違った考えを持った日本人ともうまくやっていく.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(3) グループの調和を大切にするように気をつける.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(4) 話をするとき、相手と自分との上下関係を考えそれに合ったふさわしい態度をとる.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(5) 日本社会のシステムやルールを理解してそれに合わせて行動する.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(6) 日本人の言葉が真意なのか真意ではないかを理解する.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(7) 日本人と日本語で話していて会話が途切れない.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(8) 日本人たちが話しているところに積極的に参加する.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(9) 日本語で他人と自由にコミュニケーションする.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(10) 知らない日本人とでも、すぐに会話を始める.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(11) 自己主張をしないで他人の意見をよく聴く.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

以上で質問は終わりです.

お疲れ様でした. ご協力を感謝いたします.

調査票 2

JAIST の留学生の異文化適応に関するアンケート

知識科学研究科 橋本研究室

陳 殊帆

E-mail : s0750034@jaist.ac.jp

お願い

調査 2 は, JAIST に来ている留学生の現状を調べるアンケートです. この調査の結果はすべて統計的に処理しますので, 名前などが公表されることはありません. 自分の実際に従って答えてください. よろしく願いいたします.

1, あなたはこの大学において誰かに対して違和感を持った.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

2, あなたはどんな場面で違和感を持ちましたか. 当てはまるものにすべて丸をつけてください.

- ① 授業中にある日本人学生がいたずらをした.
- ② 授業中にある留学生がいたずらをした.
- ③ 自分が当たり前だと思ったことを日本人学生がそう思わなかった.
- ④ 遅刻する人がいる.
- ⑤ 一緒に作業をするとき, やる気がない人がいる.
- ⑥ 自分が言いたいことが相手にうまく伝わらなかった.
- ⑦ 同じ研究室の日本人学生が挨拶しない.
- ⑧ 日本人学生と物事に関しての考え方や進む方向について違いを感じる.
- ⑨ 自分が思っている日本人のイメージと実際に接した日本人と違う.
- ⑩ その他のものがある場合に以下にお書きください.

[]

3, 問 2 のどれかに当てはまった人にお尋ねします. あなたが以上の場面で持った違和感の原因はどこにありますか. 最も当てはまるものに丸をつけてください.

① 自分 ②相手 ③自分と相手の間 ④分からない

4, 問 3 で①を選んだ人にお尋ねします. その原因は具体的にどこにありますか. 当てはまるものにすべて丸をつけてください.

- ① 自分の知識不足.
- ② 自分の相手に対する思い込み.

- ③ 自分の相手に対する認識不足.
- ④ 自分の個性.
- ⑤ 自分の言語表現能力の限界.
- ⑥ その他のものがある場合に以下にお書きください.

[]

5, 問3で②を選んだ人にお尋ねします. その原因は具体的にどこにありますか.

当てはまるものにすべて丸をつけてください.

- ① 相手の知識不足.
- ② 相手の自分に対する思い込み.
- ③ 相手の自分に対する認識不足.
- ④ 相手の個性.
- ⑤ 相手の言語表現能力の限界.
- ⑥ その他のものがある場合に以下にお書きください.

[]

6, 問3で③を選んだ人にお尋ねします.

- ① 自分と相手の生活様式が違う.
- ② 自分と相手の時間感覚が違う.
- ③ 自分と相手の習慣が違う.
- ④ 自分と相手を持っている背景知識が違う.
- ⑤ その他のものがある場合に以下にお書きください.

[]

7, 問3で②を選んだ人にお尋ねします. なぜ相手がそのような言動をしたのかについて考えてみてください. そして当てはまるものにすべて丸をつけてください.

- ① 分からない.
- ② 相手の個性.
- ③ 相手が持つ文化背景.
- ④ 相手が固定観念を抱いている.
- ⑤ その他のものがある場合に以下にお書きください.

[]

8, あなたが違和感を持った場面にもう一度遭遇したとすると, どう行動しますか.

当てはまるものにすべて丸をつけてください. その他のものがある場合は最後の選択肢で具体的にお書きください.

- ①授業中にある日本人学生がいたずらをした。
(ア)あまり関わらないようにする。
(イ)そんなことしたらよくないと注意をする。
(ウ)その他. []
- ②授業中にある留学生がいたずらをした。
(ア)あんまり関わらないようにする。
(イ)そんなことしたらよくないと注意をする。
(ウ)その他. []
- ③自分が当たり前だと思ったことを日本人学生がそう思わなかった。
(ア)なぜ自分がそう思っているのかを相手に説明する。
(イ)なぜ自分の思ったことを分かってくれないのかを相手に問う。
(ウ)その他. []
- ④遅刻する人がいる。
(ア)無視する。
(イ)相手になぜ遅刻するのかを尋ねる。
(ウ)遅刻しないように注意をする。
(エ)その他. []
- ⑤一緒に作業をするとき、やる気がない人がいる。
(ア)ほっておく。
(イ)相手がやる気を出すように励ます。
(ウ)相手の分までやる。
(エ)その他[]
- ⑥自分が言いたいことが相手にうまく伝わらなかった。
(ア)言葉遣いだけではなく、ニュアンスやイメージなどを工夫する。
(イ)発言を控える。
(ウ)その他. []
- ⑦同じ研究室の日本人学生が挨拶しない。
(ア)自分も挨拶をしない。
(イ)自分から相手に挨拶する。
(ウ)その他. []

⑧日本人学生と物事に関しての考え方や進む方向について違いを感じる.

(ア)相手の考え方や, やり方に従う.

(イ)自分の考え方や, やり方を相手に押し付ける.

(ウ)相手に自分の考え方や, やり方の違いについて説明する.

(エ)相手と自分の同意できる考え方や, やり方を探る.

(オ)その他. [

]

⑨自分が思っている日本人のイメージと実際に接した日本人と違う.

(ア)相手を避ける.

(イ)日本人に対して固定観念を抱かないように, 個性を尊重する.

(ウ)日本人のイメージを修正する.

(エ)どうすればいいのかと自分のとるべき行動について考える.

(オ)その他. [

]

⑩その他のものがある場合に以下にお書きください.

[

]

以上で質問は終わりです.

お疲れ様でした. ご協力感谢您いたします.

調査票 3

JAIST の留学生の異文化適応に関するアンケート

知識科学研究科 橋本研究室

陳 殊帆

E-mail : s0750034@jaist.ac.jp

お願い

調査 2 は, JAIST に来ている留学生の現状を調べるアンケートです. この調査の結果はすべて統計的に処理しますので, 名前などが公表されることはありません. 自分
の実際に従って答えてください. よろしく願いいたします.

1, 次のそれぞれの質問について, 最も当てはまるものに丸をつけてください.

(1) この学校の授業に不満がある.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(2) 日本人と付き合うのは面倒である.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(3) 日本社会のシステムやルールを理解してそれに合わせて行動する.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(4) この学校で努力して勉強していることが楽しい.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(5) 日本人の言葉が真意なのか真意ではないかを理解する.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(6) 日本人に仲間にいれてもらえないと感じる.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(7) 最近感情の変化が激しい.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(8) 学校内に一緒に行動する友達がいる.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(9) 日本の習慣が好きではない.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(10) 相手の日本人の気持ちを察して, それに応じた行動をする.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(11) 不安を感じることが多い.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(1 2) 日本の生活スタイルが好きだ.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(1 3) 日本語で他人と自由にコミュニケーションする.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(1 4) 私には日本の生活より国の生活の方が合っている.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(1 5) 困ったときに相談できる人が日本にいる.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(1 6) 自分と違った考えを持った日本人ともうまくやっていく.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(1 7) グループの調和を大切にするように気をつける.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(1 8) 自己主張をしないで他人の意見をよく聴く.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(1 9) よく母国へ帰りたと思う.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(2 0) 授業中つまらないと思っている.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(2 1) 日本人と日本語で話していて会話が途切れない.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(2 2) 日本人たちが話しているところに積極的に参加する.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(2 3) ちょっとしたことが気になる.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(2 4) 知らない日本人とでも、すぐに会話を始める.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

(2 5) 話をするとき、相手と自分との上下関係を考えそれに合ったふさわしい態度をとる.

①当てはまる ②少し当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

2, あなたが違和感を持った場面にもう一度遭遇したとすると, どう行動しますか.
当てはまるものにすべて丸をつけてください. その他のものがある場合は最後の選択肢で具体的にお書きください.

①授業中にある日本人学生がいたずらをした.

(エ)あまり関わらないようにする.

(オ)そんなことしたらよくないと注意をする.

(カ)その他. []

②授業中にある留学生がいたずらをした.

(エ)あんまり関わらないようにする.

(オ)そんなことしたらよくないと注意をする.

(カ)その他. []

③自分が当たり前だと思ったことを日本人学生がそう思わなかった.

(エ)なぜ自分がそう思っているのかを相手に説明する.

(オ)なぜ自分の思ったことを分かってくれないのかを相手に問う.

(カ)その他. []

④遅刻する人がいる.

(オ)無視する.

(カ)相手になぜ遅刻するのかを尋ねる.

(キ)遅刻しないように注意をする.

(ク)その他. []

⑤一緒に作業をするとき, やる気がない人がいる.

(オ)ほっておく.

(カ)相手がやる気を出すように励ます.

(キ)相手の分までやる.

(ク)その他[]

⑥自分が言いたいことが相手にうまく伝わらなかった.

(エ)言葉遣いだけではなく, ニュアンスやイメージなどを工夫する.

(オ)発言を控える.

(カ)その他. []

⑦同じ研究室の日本人学生が挨拶しない.

(エ)自分も挨拶をしない.

(オ)自分から相手に挨拶する.

(カ)その他. [

]

⑧日本人学生と物事に関しての考え方や進む方向について違いを感じる.

(カ)相手の考え方や, やり方に従う.

(キ)自分の考え方や, やり方を相手に押し付ける.

(ク)相手に自分の考え方や, やり方の違いについて説明する.

(ケ)相手と自分の同意できる考え方や, やり方を探る.

(コ)その他. [

]

⑨自分が思っている日本人のイメージと実際に接した日本人と違う.

(カ)相手を避ける.

(キ)日本人に対して固定観念を抱かないように, 個性を尊重する.

(ク)日本人のイメージを修正する.

(ケ)どうすればいいのかと自分のとるべき行動について考える.

(コ)その他. [

]

⑩その他のものがある場合に以下にお書きください.

[

]

3, あなたはどんな相手と接触していますか. その相手との接触頻度や話題などについてお尋ねします. 当てはまるものに丸をつけてください.

接触相手		指導教員			他の教員・職員			研究室の学生			チューターの学生			学内の他の学生			学外の友人・知人		
相手の国籍		日本人	日本人	他の外国人	日本人	日本人	他の外国人	日本人	日本人	他の外国人	日本人	日本人	他の外国人	日本人	日本人	他の外国人	日本人	日本人	他の外国人
相手との接触頻度	毎日																		
	～週 1 回																		
	～月に 1 回																		
	～3 ヶ月 1 回																		
	それ以下																		
話す内容	個人的な内容																		
	一般的な内容																		
相手とのコミュニケーションの満足度	満足																		
	やや満足																		
	あまり満足していない																		
	不満足																		

以上で質問は終わりです.

お疲れ様でした. ご協力を感謝いたします.

付録 4

調査 2 のインタビューの質問項目

A と B グループ共通の質問

- 1, 来日の目的は何か？
- 2, 日本人また他の外国人と積極的に付き合うのか？
- 3, 接触相手とのコミュニケーションに関して満足（不満）であるが，その理由は何か？
- 4, 日本人に仲間にいれてもらえないと感じる（感じない），なぜそう思うのか？
- 5, 研究室の人また同国人の先輩や同級生以外，あまり接触していないが，その原因は何か？
- 6, 受入側に何を期待しているのか？
- 7, 日常生活や学習生活に対して困難点はあるのか？

以下の質問は B グループ対象

- 8, 交友関係に対して不満が多いようで，その理由は何か？
- 9, 違和感を持つ場面で選択した行動ついて，なぜそのような行動を選択するのか？
- 10, そもそもその場面で違和感を持つ原因はどこにあるのか？
- 11, 相手のどんな行動あるいは言葉によって，違和感を持ちましたか？
- 12, なぜ相手はそのような行動をするのか？
- 13, その違和感に納得しましたか？

付録 5

違和感に関する質問項目と各質問項目（問 1.1～問 1.9）との相関。問 2.3：グループワーク中の留学生の言動に対して、違和感を持った。問 1.1～問 1.9：異なる国の文化に対する考え方についての質問項目（付録 1 調査票（日本人学生用）後に参照）

	質問項目	相関係数
日本人学生	問 1.1	.412*
	問 1.2	.475*
	問 1.3	.234
	問 1.4	-.108
	問 1.5	-.247
	問 1.6	-.394*
	問 1.7	.361
	問 1.8	-.478*
	問 1.9	-.251

**相関係数は 1%水準で有意（両側）です。*相関係数は 5%水準で有意（両側）です。

違和感に関する質問項目と各質問項目（問 1.1～問 1.3）との相関。問 4.3：グループワーク中の日本人学生の言動に対して、違和感を持った。問 1.1～問 3.4：JAIST での学習，日常生活，心身状態に関する質問項目（付録 1 調査票（留学生用）後に参照）

	質問項目	相関係数
留学生	問 1.1	.664**
	問 1.2	.500**
	問 1.3	.299
	問 1.4	.064
	問 1.5	.136
	問 2.1	.182
	問 2.2	.309
	問 2.3	-.061
	問 2.4	.148
	問 2.5	.226
	問 3.1	.247
	問 3.2	.485*
	問 3.3	.417*
	問 3.4	.611**

**相関係数は 1%水準で有意（両側）です。*相関係数は 5%水準で有意（両側）です。

付録6 (留学生①)

	留学生1	留学生2	留学生3	留学生4
性別	女性	男性	女性	女性
来日期間	1年未満	5年以上	5年以上	1年未満
受けた授業	イ	イとシ	イ	イ
1. どんな場面で違和感を持ちましたか？	①授業中、ある日本人学生が悪戯から。②グループワークの時、ある日本人学生が集まりの時間を守ってなかったから。その学生はグループワークをあまり参加しなかったが、最終発表の時だけ入ってきた。	グループワークの時、年上の日本人は若者に「経験させる」という名づけで作業をやらせた。結局、あの方は何もなかった。本人イメージの日本人と違った。	グループワークの時、留学生が当たり前と思ったことが日本人学生はそうではなかった。また、日本人学生は何か思っても話さないと思った。	グループワークの時、日本人学生が多かったから、考え方の違いを強く感じた。グループのリーダーの遠慮のような行動に違和感を持った。
2. 相手のどんな行動あるいは言葉によって、違和感を持ちましたか？	事前に約束したグループワークの時間帯に来なかった。後何度も電話したが、来なかった。	グループワークの時、あるアイデアを出すとき、最初は全然協力しなのに、最後に一日で新しいアイデアを出して「これをやってくれ」と言われ		グループリーダーのやり方
3. 個人に対し、あるいはグループ全体に対して違和感を持ちましたか？相手は留学生でしたか？日本人学生でしたか？(国籍との関連性)	ある日本人学生。「国籍と関係ない、グループワークに対する責任感が重要」	ある日本人学生。「国籍と関係ない、やるかやらないか」	グループはほとんど中国人留学生の時、留学生に対して違和感を感じる。	ある日本人学生
4. その違和感の起因は日本人と留学生とのグループ構成でしたか？	はい	はい	はい	はい
そもそもグループワークという方法に対してどんな考えだった？	好き	好きじゃない	いい。みんなの努力を通じて、ゼロから作り、どんどん良くなって、最後に提出でき、とても達成感がある。自分の努力も含めて、また自分だけの努力よりみんなの力合わせて(課題を完成させる)、効果が大きいと思う。	あってもなくても、別にどちらでもいい。
5. 課題内容による原因でしたか？	ではない	ではない	ではない	ではない
6. グループワーク中話を通じない場合、その原因はどこにあるの？	日本人表現の曖昧さ	年の差	自分の表現能力が足りない	相手日本人学生の表現が曖昧で、はっきりしない。
7. どういう目的で授業を受けましたか？(あるいは授業に取り組む姿勢)	ただ単位とるではなく、グループワークに対する責任感が重要。	ただ単位を取りたい学生が多い、留学生も日本人学生もいる。	自分は勉強したい。	自分はグループワークの参加が積極的である。

(留学生②)

8. グループワークの討論が多かったですか？	多かった	多かった	多かった	多かった
9. 討論はうまく行えましたか？うまく行えなかったら、その原因は何でしたか？	うまく行った。学部違っても互いの長所が発揮でき、バランスよく取れる	喧嘩になった。「自分のアイデアが通らないなら、喧嘩になる。みんなが妥協しない。」	うまく行った。みんな積極的にアイデアを出し、1ついい案を作成した。	留学生発言が少なかった、ほとんど日本人学生で討論を行った。
10. (留学生) 心身状態のストレスがあったから、違和感を持ちましたか？	ストレスがある。勉強と就職に関する。	ストレスがない。	ストレスがある。宿題とか、回りの雰囲気	ストレスがあった。
11. (日本人学生) 異なる国の文化に対して積極的な考えでしたか？なぜそう思いますか？	/	/	/	/
12. イノベーション概論のグループワークで違和感を持ち、システム科学概論の方で違和感を持てなかった(あるいは逆)、その違いの原因はなんですか？	/	システムの法がやりやすかったから、留学生が少ない。留学生が多くなると何となく消極的な雰囲気になる、課題も遅い時間ですすしかない、	/	/
13. 相手はなぜそのような言動をしたのかについて、その理由はなんですか？	「相手個人の理由」	考えてなかった	「人はそれぞれ、他人は自分と同じようにすることができない、逆に、自分も他人と同じようにすることができない。」	個人の性格
14. その違和感に納得しましたか？	納得できない	納得した。「なんとなく今もう日本人的な考え方。」	理解できるけど、納得しない。	理解できるけど、納得しない。
15. グループワーク以外でも違和感を持ったことがありますか？持つことがあったら、どんな場面で？どんな状況で？	同じ研究室の日本人男子学生(1年)は彼女に挨拶をしない、彼女の存在を無視するような感じを与えた。バイト先で、顧客に「神様」のようなサービスすることを違和感を持った。	「一番基本的に部屋に入ると靴を脱がず、今も誰か部屋に入って靴を脱がないなら、びっくりよ。特に中国人留学生の中に、今も見かける。」	/	同じ部屋にいる別の研究室に仮配属した日本人学生は自分を見たら無視し、挨拶もしない、とても冷たい感じがした。
16. (日本人学生) ストレスがあった？それは違和感を持ったから？	/	/	/	/

(日本人学生①)

	日本人学生A	日本人学生B	日本人学生C	日本人学生D
性別	女性	男性	男性	男性
来日期間	/	/	/	/
受けた授業	イトシ	イトシ	イトシ	イトシ
1. どんな場面で違和感を持ちましたか？	①グループワークで年上の日本人と意見が対立した。②グループワークで留学生の積極性が足りないと思った。	①グループワークで留学生がバイトを理由にして、グループワークを休む。②自分日本人1人と他は留学生とのグループで、自分は日本人だから「お任せ」という雰囲気。③用事があったから、一回グループワークを休んだ時、留学生は課題を進んで、「留学生がやらなきゃいけない時、やる」という	①グループワークを遅刻した人。②グループワークの連絡メールを返事しなかった留学生がいった。③留学生も日本人学生も自分の意見を言わない人がいった。	グループワークで、中国留学生の「中国では形の見えないサービスに対してお金が払われない」主張に驚いた。
2. 相手のどんな行動あるいは言葉によって、違和感を持ちましたか？	年上の日本人学生の提案が実現不可能と思って、意見が対立した。	学業より私用が優先という考え。	遅刻する・メールの返事をしない・発言をしない	相手の主張
3. 個人に対し、あるいはグループ全体に対して違和感を持ちましたか？相手は留学生でしたか？日本人学生でしたか？(国籍との関連性)	国籍関係ない、やる気があるかどうか	留学生	「国籍関係せず、やるかやらないか」	グループの留学生全体
4. その違和感の起因は日本人と留学生とのグループ構成でしたか？	いいえ	はい	いいえ	はい
そもそもグループワークという方法に対してどんな考えだった？	グループワークは意味ない。人数が多いから。	グループワークをする意識メンバー全員に共通しないと、グループワークの効果が出ない	好き。 「楽しいこともあるし、いやなときもある。」	「肯定的なら、違和感を感じるけど、その分を新しいこと、面白いことが発見、例えば自分が今まで想像もできなかった考え方とか、これは人種とか性別とか関係なく、みんないろいろな考えが持っているの、人数が多ければ多いほど、発見できる。や否定的は、人数が多いと、その分はまとめていく、時間がかかる」
5. 課題内容による原因でしたか？	ではない	ではない	ではない	ではない
6. グループワーク中話が通じない場合、その原因はどこにあるの？	学部出身・言葉の壁・バイクランド	言葉の壁	「一所懸命伝えても、伝わらないときがあった。もうちょっと紙ぐらいで説明すれば、伝わるかもしれないですが、その日本人である私の限界でもありますが、彼らはやっぱり第2言語だから、言いたいことをうまく伝えられないこと」	相手当然と思っていることが自分にとってそうではない、そして、説明してもらわないと分からない。
7. どのような目的で授業を受けましたか？(あるいは授業に取り組む姿勢)	ただ単位を取りたい、やる気がない人がいった。	「単位を取るの大事やけど、ただ単位を取るだけではない。」	「自分は成績に拘らず、一所懸命やりたい。」 授業に対する熱意。 単位だけとればよいという価値観がある人。	グループの金沢に住んでいる留学生は通うことによってグループワークを早退した。ある日本人学生はただ単位をとるため、グループワーク一回も出席しなかった。

(日本人学生②)

8. グループワークの討論が多かったですか？	多かった	/	多かった	多かった
9. 討論はうまく行えましたか？うまく行えなかったら、その原因は何でしたか？	喧嘩になったグループワークを経験した。	大変だった。自分に任された。		うまく行った。「自分の意見を通る時があったし、通らない時もあった。みんないろんな考えがあるので、自分が気付けなかった点も指摘されて、
10. (留学生)心身状態のストレスがあったから、違和感を持ちましたか？	/	/	/	/
11. (日本人学生)異なる国の文化に対して積極的な考えでしたか？なぜそう思いますか？	興味がある。	違いの発見は一つの楽しみである。	興味がある。いろんな国の人と接して、言葉や文化、風習を知ることができる。	「人種とかあんまり関係ないと思います、重視するのは個人。」
12. イノベーション概論のグループワークで違和感を持ち、システム科学概論の方で違和感を持てなかった(あるいは逆)、その違いの原因はなんですか？	個人のモチベーションの違いによる。シでは、メンバー全員(日本人)やる気満々な人。	日本人だけのグループワークと留学生を混ぜたグループワークの違いは時間の使い方である。日本人だけのグループワークでは、だらだらして、長く時間をかけて進む。留学生と一緒にグループワークでは、決めた時間内で話が進む。	グループの人数が違い、シは6人(日本人4人、留学生2人)、イは10人(日本人と留学生が半々)。また、シの時、全員やる気があって、いい方向に進んだ。しかし、イの時、やる気がない人がいて、課題の内容も理解できなかった人もいた。その人たちを置いて進むようになった。	課題の方法の違い。「イのグループワークが新しい商品はどう売るのが、本当に商品に対する考えとか売り方、物だったら売れるかもしれない、サービスだったら、売れないかもしれない。シでは九谷焼を何個か並べて、それを自分では何点をつけて、グループ全体の平均で私たちがこのカップを売りたいです、という評価をするグループワークです。人間の考え方より感性、それはあんまり違和感なかった。そこはみんな違うという前提だったので。」
13. 相手はなぜそのような言動をしたのかについて、その理由はなんですか？	考えてなかった	「ことばの壁、自分が伝えたいことが相手理解してくれなかった。」	考えてなかった	「国の文化の違い」
14. その違和感に納得しましたか？	納得しない、諦めた。	納得しようとしている。	理解できるけど、納得しない。	歴史や背景などの理由が説明されたので、納得した。
15. グループワーク以外でも違和感を持ったことがありますか？持つことがあったら、どんな場面？どんな状況で？	JAISTではやる気がない学生が多かった。	留学生が多い研究室に、中国語を中心とした会話が日本人学生は参加できないから。	日本人学生も留学生も授業に対する態度を違和感を持った。「何のために大学院来たのか？」「授業に対する一所懸命な態度が大事」	中国では、株を持っている人＝お金持ちという話を留学生から聞いた。
16. (日本人学生)ストレスがあった？それは違和感を持ったから？	ストレスがあった。	ストレスがあった。違和感との関係が分からない。	イライラすることがあった。違和感があって、イライラする。	ストレスがあった。「話合っても理解してくれなかったら、ストレスがたまります。」

付録 7 (交友関係 A)

	1回目				2回目			
名前	相手	頻度	内容	満足度	相手	頻度	内容	満足度
A1	指導教員(日本人)	毎日	一般的	やや満足	指導教員(日本人)	毎日	一般的	満足
	指導教員(他の外国人)	～週1回	一般的	やや満足				
	他の教員・職員(日本人)	毎日	一般的	やや満足	他の教員・職員(日本人)	毎日	一般的	満足
	他の教員・職員(他の外国人)	～週1回	一般的	やや満足	他の教員・職員(他の外国人)	～週1回	一般的	満足
	研究室の学生(日本人)	毎日	一般的	やや満足	研究室の学生(日本人)	毎日	一般的	満足
	研究室の学生(同国人)	毎日	個人的	満足	研究室の学生(同国人)	毎日	個人的	満足
	チューターの学生(同国人)	毎日	個人的	満足	チューターの学生(同国人)	～週1回	一般的	満足
	チューターの学生(他の外国人)	～週1回	一般的	やや満足	チューターの学生(他の外国人)	～週1回	一般的	やや満足
	学内の他の学生(日本人)	～週1回	一般的	やや満足	学内の他の学生(日本人)	～週1回	一般的	あまり満足していない
	学内の他の学生(同国人)	～週1回	一般的	やや満足	学内の他の学生(同国人)	毎日	個人的	満足
A2					学外の友人・知人(日本人)	毎日	個人的	満足
	学外の友人・知人(同国人)	毎日	個人的	やや満足	学外の友人・知人(同国人)	毎日	個人的	満足
	指導教員(日本人)	～週1回	個人的	やや満足	指導教員(日本人)	～月に1回	個人的	あまり満足していない
	他の教員・職員(日本人)	毎日	一般的	満足	他の教員・職員(日本人)	毎日	一般的	やや満足
					研究室の学生(日本人)	毎日	一般的	やや満足
	研究室の学生(同国人)	毎日	個人的	満足	研究室の学生(同国人)	毎日	個人的	満足
					チューターの学生(日本人)	それ以下	一般的	あまり満足していない
	チューターの学生(同国人)	毎日	個人的	満足	チューターの学生(同国人)	～週1回	個人的	満足
	チューターの学生(他の外国人)	～週1回	一般的	満足	チューターの学生(他の外国人)	～週1回	一般的	やや満足
	学内の他の学生(日本人)	それ以下	一般的	やや満足	学内の他の学生(日本人)	毎日	一般的	やや満足
A3	学内の他の学生(同国人)	毎日	個人的	満足	学内の他の学生(同国人)	毎日	個人的	満足
					学内の他の学生(他の外国人)	～週1回	一般的	あまり満足していない
	学外の友人・知人(同国人)	毎日	個人的	満足	学外の友人・知人(同国人)	～週1回	個人的	満足
	指導教員(日本人)	～週1回	一般的	やや満足	指導教員(日本人)	～月に1回	一般的	やや満足
	他の教員・職員(日本人)	～週1回	個人的	やや満足				
	研究室の学生(日本人)	～週1回	個人的	やや満足				
					研究室の学生(同国人)	毎日	個人的	満足
	チューターの学生(同国人)	毎日	個人的	満足	チューターの学生(同国人)	毎日	個人的	満足
	学内の他の学生(同国人)	毎日	一般的	満足	学内の他の学生(同国人)	毎日	一般的	満足
					学内の他の学生(日本人)	～週1回	一般的	やや満足
					学外の友人・知人(同国人)	毎日	個人的	満足

* “\” は無回答と表わす。青く塗ったところは「あまり満足していない」あるいは「不満足」と表わす。

(交友関係 B)

B4	指導教員(日本人)	～週1回	一般的	あまり満足していない	指導教員(日本人)	～月に1回	一般的	不満足
	他の教員・職員(日本人)	～週1回	一般的	不満足	他の教員・職員(日本人)	毎日	一般的	不満足
	他の教員・職員(他の外国人)	～週1回	一般的	不満足				
					研究室の学生(日本人)	～週1回	一般的	不満足
	研究室の学生(同国人)	毎日	個人的・一般的	満足	研究室の学生(同国人)	毎日	個人的	満足
	研究室の学生(他の外国人)	～週1回	一般的	不満足	研究室の学生(他の外国人)	毎日	一般的	あまり満足していない
	チューターの学生(同国人)	～週1回	個人的・一般的	満足	チューターの学生(同国人)	～週1回	個人的・一般的	満足
	チューターの学生(他の外国人)	～週1回	一般的	不満足				
B5					学内の他の学生(同国人)	毎日	個人的・一般的	やや満足
	指導教員(他の外国人)	～月に1回	一般的	あまり満足していない	指導教員(他の外国人)	～週1回	一般的	あまり満足していない
	他の教員・職員(日本人)	～週1回	一般的	不満足	他の教員・職員(日本人)	～週1回	一般的	あまり満足していない
					研究室の学生(日本人)	～週1回	一般的	あまり満足していない
	研究室の学生(同国人)	毎日	個人的	満足	研究室の学生(同国人)	毎日	個人的	満足
	研究室の学生(他の外国人)	～週1回	一般的	不満足	研究室の学生(他の外国人)	～週1回	一般的	あまり満足していない
	チューターの学生(同国人)	毎日	個人的	/	チューターの学生(同国人)	～週1回	個人的	満足
					学内の他の学生(日本人)	～月に1回	一般的	あまり満足していない
B6	指導教員(日本人)	～週1回	一般的	あまり満足していない	指導教員(日本人)	～月に1回	一般的	やや満足
	他の教員・職員(日本人)	～週1回	一般的	あまり満足していない	他の教員・職員(日本人)	～週1回	一般的	やや満足
	研究室の学生(同国人)	～週1回	個人的・一般的	やや満足	研究室の学生(同国人)	～週1回	一般的	あまり満足していない
	チューターの学生(同国人)	～週1回	個人的	満足	チューターの学生(同国人)	～週1回	個人的	満足
	学内の他の学生(同国人)	～週1回	個人的・一般的	やや満足	学内の他の学生(同国人)	～週1回	一般的	やや満足
	学外の友人・知人(同国人)	それ以下	個人的	やや満足	学外の友人・知人(同国人)	～週1回	個人的	やや満足

* “\” は無回答と表わす。青く塗ったところは「あまり満足していない」あるいは「不満足」と表わす。

	場面	行動
A1	①授業中ある日本人学生がいたずらをした。	そんなことをしたらよくないと注意をする
	②授業中ある留学生がいたずらをした。	そんなことをしたらよくないと注意をする
	③自分が当たり前だと思ったことを日本人学生がそう思わな	なぜ自分がそう思っているのかを相手に説明する
	④遅刻する人がいる。	相手になぜ遅刻するのかを尋ねる
	⑤一緒に作業をするとき、やる気がない人がいる。	相手がやる気を出すように励ます
	⑥自分が言いたいことが相手にうまく伝わらなかった。	言葉遣いだけではなく、ニュアンスやイメージなどを工夫する
	⑦同じ研究室の日本人学生が挨拶しない。	自分から相手に挨拶する
	⑧日本人学生と物事に関しての考え方や進む方向について違いを感じる。	相手に自分の考え方や、やり方の違いについて説明する
	⑨自分が思っている日本人のイメージと実際に接した日本人と違う。	どうすればいいのかと自分のとるべき行動について考える
A2	①授業中ある日本人学生がいたずらをした。	あんまり関わらないようにする
	②授業中ある留学生がいたずらをした。	知り合い留学生なら、そんなことしたらよくないと注意する
	③自分が当たり前だと思ったことを日本人学生がそう思わな	なぜ自分がそう思っているのかを相手に説明する
	④遅刻する人がいる。	無視する
	⑤一緒に作業をするとき、やる気がない人がいる。	相手がやる気を出すように励ます
	⑥自分が言いたいことが相手にうまく伝わらなかった。	言葉遣いだけではなく、ニュアンスやイメージなどを工夫する
	⑦同じ研究室の日本人学生が挨拶しない。	自分から相手に挨拶する
	⑧日本人学生と物事に関しての考え方や進む方向について違いを感じる。	相手と自分の同意できる考え方や、やり方を探る
	⑨自分が思っている日本人のイメージと実際に接した日本人と違う。	日本人に対して固定観念を抱かないように、個性を尊重する
A3	①授業中ある日本人学生がいたずらをした。	あんまり関わらないようにする
	②授業中ある留学生がいたずらをした。	そんなことをしたらよくないと注意をする
	③自分が当たり前だと思ったことを日本人学生がそう思わな	なぜ自分がそう思っているのかを相手に説明する
	④遅刻する人がいる。	無視する
	⑤一緒に作業をするとき、やる気がない人がいる。	相手がやる気を出すように励ます
	⑥自分が言いたいことが相手にうまく伝わらなかった。	言葉遣いだけではなく、ニュアンスやイメージなどを工夫する
	⑦同じ研究室の日本人学生が挨拶しない。	自分から相手に挨拶する
	⑧日本人学生と物事に関しての考え方や進む方向について違いを感じる。	相手に自分の考え方や、やり方の違いについて説明する
	⑨自分が思っている日本人のイメージと実際に接した日本人と違う。	日本人に対して固定観念を抱かないように、個性を尊重する

違和感を持つ場面での行動 B

B4	①授業中ある日本人学生がいたずらをした。	あんまり関わらないようにする
	②授業中ある留学生がいたずらをした。	知っている人だったら注意をする。知らない人だったら、何も言わない
	③自分が当たり前だと思ったことを日本人学生がそう思わな	何も言わない
	④遅刻する人がいる。	よくないと思うが、何も言わない
	⑤一緒に作業をするとき、やる気がない人がいる。	相手がやる気を出すように励ます
	⑥自分が言いたいことが相手にうまく伝わらなかった。	言葉遣いだけではなく、ニュアンスやイメージなどを工夫する
	⑦同じ研究室の日本人学生が挨拶しない。	自分も挨拶をしない
	⑧日本人学生と物事に関しての考え方や進む方向について違いを感じる。	相手と自分の同意できる考え方や、やり方を探る
	⑨自分が思っている日本人のイメージと実際に接した日本人と違う。	どうすればいいのかと自分のとるべき行動について考える
B5	①授業中ある日本人学生がいたずらをした。	そんなことをしたらよくないと注意をする
	②授業中ある留学生がいたずらをした。	そんなことをしたらよくないと注意をする
	③自分が当たり前だと思ったことを日本人学生がそう思わな	なぜ自分の思ったことを分かってくれないのかを相手に問う
	④遅刻する人がいる。	遅刻しないように注意する
	⑤一緒に作業をするとき、やる気がない人がいる。	ほっておく
	⑥自分が言いたいことが相手にうまく伝わらなかった。	発言を控える
	⑦同じ研究室の日本人学生が挨拶しない。	相手によって挨拶します
	⑧日本人学生と物事に関しての考え方や進む方向について違いを感じる。	相手と自分の同意できる考え方や、やり方を探る
	⑨自分が思っている日本人のイメージと実際に接した日本人と違う。	日本人に対して固定観念を抱かないように、個性を尊重する
B6	①授業中ある日本人学生がいたずらをした。	あんまり関わらないようにする
	②授業中ある留学生がいたずらをした。	あんまり関わらないようにする
	③自分が当たり前だと思ったことを日本人学生がそう思わな	なぜ自分がそう思っているのかを相手に説明する
	④遅刻する人がいる。	無視する
	⑤一緒に作業をするとき、やる気がない人がいる。	相手がやる気を出すように励ます
	⑥自分が言いたいことが相手にうまく伝わらなかった。	言葉遣いだけではなく、ニュアンスやイメージなどを工夫する
	⑦同じ研究室の日本人学生が挨拶しない。	自分も挨拶をしない
	⑧日本人学生と物事に関しての考え方や進む方向について違いを感じる。	相手に自分の考え方や、やり方の違いについて説明する
	⑨自分が思っている日本人のイメージと実際に接した日本人と違う。	どうすればいいのかと自分のとるべき行動について考える

* 青い部分は消極的な答えを示している。

参考文献

- Adler, P. S. "The Transitional Experience: An Alternative View of Culture Shock." *Journal of Humanistic Psychology*, Vol.15, 1975, p.13-23
- Cohen, Elizabeth G. *Designing Groupwork : Strategies for the heterogeneous classroom*. Teachers College Pr, 2nd, 1994, 202p.
- Gullahorn, J. T. & Gullahorn, H. E. An Extension of the U-Curve hypothesis. *Journal of Social Issues*. Vol19, NO.3, 1963, p.33-47.
- Kim, Y. Y. *Cross-Cultural Adaptation : An Integrative Theory*. In Wiseman, R. L. *Intercultural Communication Theory*. Newbury Park, 1995, CA : Sage
- Lysgaard, S. Adjustment in a Foreign Society : Norwegian Full-bright Grantees Visiting the United States . *International Social Science Bulletin*, VII, 1955, p.45-51.
- Oberg, Kalervo. Culture Shock. Presented to the Women's Club of Rio de Janeiro, Brazil, August 3, 1954, p.1-9.
- 石井敏他編. 異文化コミュニケーション・ハンドブックー基礎知識から応用・実践までー. 有斐閣選書, 1997, 310p.
- 石井敏, 久米昭元, 遠山淳. 異文化コミュニケーションの理論ー新しいパラダイムを求めてー. 有斐閣ブックス, 2001, 223p.
- 石井敏, 久米昭元編. 異文化コミュニケーション研究法ーテーマの着想から論文の書き方までー. 有斐閣ブックス, 2005, 200p.
- 池田理知子, E. M. クレーマー. 異文化コミュニケーション・入門. 有斐閣アルマ, 2000, 261p.
- 江淵一公. 留学生受け入れの政策と理念に関する一考察 : 主要国における政策分析から. 広島大学大学論集, 1991, Vol.20, p.33-68.

神谷順子, 中川かず子, 関道子. 異文化接触経験は日本人大学生の意識・行動をどう変容させるか. 日本教育心理学会総会発表論文集, 2002, No.44, p.307.

神谷順子, 関道子. 異文化接触による相互の意識変容に関する研究(6) —外国人留学生の適応と対人関係—. 日本教育心理学会総会発表論文集, 1999, No.41, p.134

外務省 “日・インドネシア経済連携協定署名” 外務省. 2007-8-20.

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/fta/j_asean/indonesia/pdfs/gaiyo.pdf

熊谷ユニヤ. Cultural Breakthrough—Toward the positive concept of culture shock—. 札幌大学総合論叢, 2001, Vol.12, p.27-34.

熊谷ユニヤ. 異文化滞在者—異文化衝撃緩和, 異文化適応促進と異文化間対処能力—. 札幌大学総合論叢, 2007, Vol.23, p.91-101.

久米昭元, 長谷川典子. ケースで学ぶ異文化コミュニケーション. 有斐閣選書, 2007, 261p.

末田清子, 福田浩子. コミュニケーション学—その展望と視点—. 松柏社, 2003, 203p.

国際行動学会編. 文化摩擦における戸惑い. 創元社, 2004, 154p.

瀬名秀明, 橋本敬, 梅田聡. 境界知のダイナミズム. 岩波書店, 2006, 272p.

田崎敦子. 日本人学生の異文化コミュニケーション能力の養成: 英語を共通語として行う留学生とのグループワークを通じて. 広島大学留学生教育, 2003, p.45-58.

http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/kiyo/AA11286840/J-Int-Edu-HiroshimaUniv_7_45.pdf

湯玉梅. 在日中国人留学生の異文化適応過程に関する研究—対人行動上の困難の観点から—. 横浜大学国際文化研究紀要, 2004, Vol.10, p.293-328.

辻新六, 有馬昌宏. アンケート調査の方法—実践ノウハウとパソコン支援—. 朝倉書店, 1987, 253p.

厚生労働省．日・インドネシア経済連結協定に基づくインドネシア人看護師・介護福祉士候補者の受入れについて．厚生労働省職業安定局外国人雇用対策課経済連携協定受入対策室，2008-11-21

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/other21/index.html>

中野正大監訳．社会調査の考え方—論点と方法—．世界思想社，2005，379p.
(原著 Tim May, SOCIAL RESEARCH 3rd edition, Open University Press, 2001)

中村知靖，松井仁，前田忠彦．心理統計法への招待—統計をやさしく学び身近にするために—．サイエンス社，2006，254p.

中村真．“因果関係を探る”．異文化コミュニケーション研究法—テーマの着想から論文の書き方まで—．石井敏，久米昭元編，有斐閣ブックス，2005，p.119.

早矢仕彩子．外国人学生の日本社会での適応感．名古屋大学教育学部記要．教育心理学．1996，Vol.43，p.147-162.

北陸先端科学技術大学院大学学生課教務係編集．平成 19 年度履修案内．北陸先端科学技術大学院大学．2007，433p.

文部科学省高等教育局留学生課．我が国の留学生制度の概要—受入れ及び派遣—．文部科学省，2001，43p.

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/05/04071201.htm

文部科学省．留学生 30 万人計画骨子．文部科学省，2008-7-29.

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/081210.pdf

八代京子，町恵理子，小池浩子，磯貝友子．異文化トレーニング—ボーダレス社会を生きる—．三修社，1998，318p.

山田玲子；Heide, Feinstein, Thompson；Micheal, Thompson. Cross—Cultural Adjustment of American Scholars in Japan: Preparing for the Experience. 北海道東海大学紀要，人文社会科学系，1994，Vol.7，p.115-129.

山本志都, 丹野大. 異文化感受性発達尺度 (The Intercultural Development Inventory) の日本人に対する適用性の検討: 日本語版作成を視野にいて. 青森公立大学紀要, 2001, Vol.7, p.24-42.

楊峻. グループワークの経験が中国人学習者の言語学習観に及ぼす影響—日本語専攻主幹科目の受講生を対象とする実証的研究—. 世界の日本語教育, 日本語教育論集, 2008, Vol.18, p.113-131.

吉沅洪. 日中比較による異文化適応の実際. 溪水社, 2003, 184p.

謝辞

本研究はたくさんの方々のご指導，ご支援を頂きました．様々な人々の協力によりここまで研究を完成させることができ，深く感謝いたします．

指導教員である橋本敬准教授には，研究のはじめから，遂行までご指導，ご意見を頂き，また，研究以外にも多くの助言と温かい励ましを頂き心より御礼を申し上げます．副テーマの指導教員である近藤修司教授には，感謝いたします．知識研究科の先生方には授業などでお世話になりました．

研究室において，金野武司，小林重人氏，真隅暁氏，篠原直登氏には普段から研究が行き詰まった際に的確な指導を頂き，また本研究論文の作成にあたり，貴重なご助言をいただきました．研究室のメンバーには研究ではなく，普段の私生活でもお世話になり，深く感謝いたします．

また，忙しい院生生活の中，調査にご協力くださった知識科学研究科の学生皆様に，心より感謝いたします．さらに，調査の場を提供頂いた井川康夫教授と中森義輝教授に，深く感謝いたします．

本研究は，このようなたくさんの方々に支えられ，進めることができ，完成に至りました．心より感謝を申し上げます．